

DOS / V PCIバス対応
補間機能付き4軸モータコントロールボード

MC8041P 取扱説明書

初版 1999.12.20
改定 2003.02.28 Ver7.0

はじめに

このたびは、MC8041Pをご検討いただきまして、ありがとうございます。

安全にお使いいただくために

本製品を安全にお使いいただくために、本書に記述されている内容を必ずお守りください。なお注意事項をお守りいただかない場合、製品の故障、瑕疵担保責任、その他一切の保証をできかねる場合があります。

本製品を使用する前に必ず本書を熟読し理解した上でご使用ください。

中身をお確かめ下さい

お買い求めになった製品の添付品が揃っているかどうか確認してください。万一、添付品が足りない場合は、すぐにお買い求めの販売店にご連絡ください。

ボード本体	1枚
専用I/Oケーブル	1本

なお、取扱説明書、ソフトウェアについては資源節約の為、添付していません。追加でご必要の場合はお買い求めの販売店または弊社までご請求ください。また、取扱説明書、ソフトウェアは、弊社ホームページよりダウンロードできます。

URL: <http://www.novaelec.co.jp/>

マニュアルの併用

MC8041Pの回路構成は、4軸モータコントロールIC MCX314をメインとし、PCIBスのバスインターフェイス回路とI/Oインターフェイス回路から成っています。本書では、本製品及びデバイスドライバのインストール、ライブラリの使用方法、PCIBス、I/Oアドレス、入出力信号のインターフェイス回路を主に記述しています。モータ制御の基本機能はすべてMCX314に依存していますので、これら機能動作の詳細については"MCX314取扱説明書"を併せてご参照ください。

注意・危険

引火性ガス等の近くで使用しないで下さい。感電、火傷、焼損により大怪我や死亡につながります。

本製品は下記の環境で使用してください。

周囲温度	0~45
湿度(非結露)	20~90%
浮遊粉塵	特にひどくないこと
腐食性ガス	ないこと
供給電源	DC+5V(±5%)、外部電源: DC+12~24V

本製品を正しく使っていただくためにも定期的な点検を行ってください。

ケーブル接続	ボードのコネクタとケーブルが正しく接続されていること。
カードエッジ	汚れ、腐食がないこと。
コネクタ接続部	汚れ、腐食がないこと。
IC、ボード上	いちじるしいほこりや異物が付着していないこと。

本製品の取り扱い

本製品は静電気防止袋に入っています。本製品を取り扱う際には、人体、衣服の静電気を取り除き、基板の両端面をはさむように持つか、取付金具を持つようにしてください。

コネクタの端子や実装部品の端子にはできるだけ触れないようにしてください。体が著しく帯電した状態でコネクタ端子や実装部品の端子に触れると、実装されているCMOS-ICを破壊する場合があります。特に冬季の乾燥した時期などは注意が必要です。

衝撃、振動、磁気や静電気の加わる場所での保管や使用は行わないで下さい。故障や誤動作の原因となります。

本製品を改造しないで下さい。改造した場合の故障、誤動作などについては一切の責任を負いません。

供給電源が通電した状態で本製品や接続ケーブルの挿抜は行わないで下さい。故障や誤動作の原因となります。

本書の記載内容は、2003年2月現在のもので、今後、機能の向上などのため予告なしに変更する場合があります。

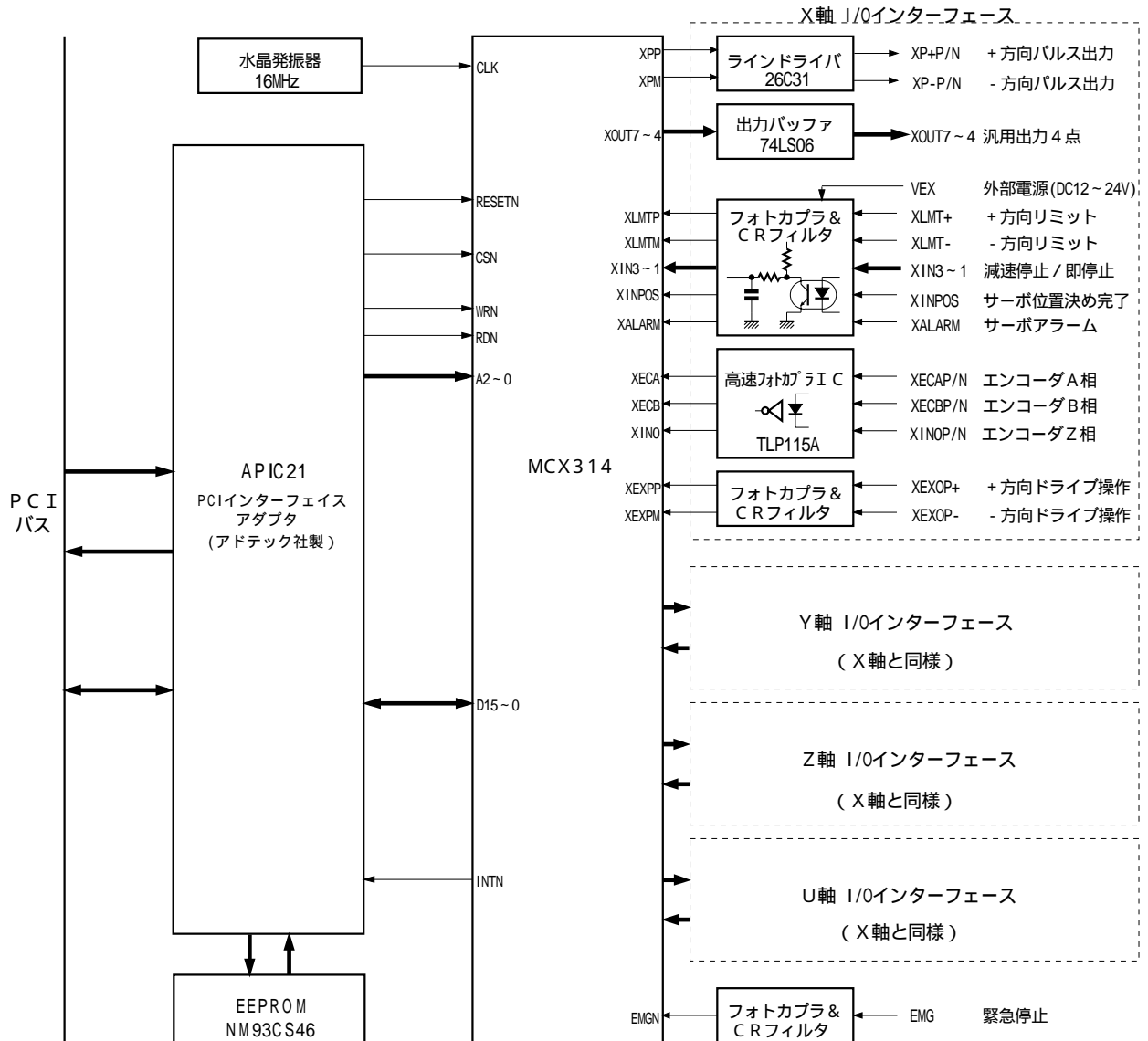
1 . 概要	1
1.1 MCX314の持つ機能の制限	2
1.2 MC8041Aとの違い	2
1.3 PCIバスインターフェイス	2
1.4 各軸I/Oインターフェイス	2
2 . I/Oアドレス設定とリード/ライトレジスタ	4
3 . 入出力信号	5
3.1 I/Oコネクタ	5
3.2 ドライブパルス出力信号 (nP+P, nP+N, nP-P, nP-N)	6
3.3 汎用出力信号 (nOUT7, nOUT6, nOUT5, nOUT4)	7
3.4 オーバランリミット入力信号 (nLMT+, nLMT-)	7
3.5 減速停止/即停止入力信号 (nIN1, nIN2, nIN3)	8
3.6 サーボモータ用入力信号 (nINPOS, nALARM)	9
3.7 エンコーダ入力信号 (nECAP, nECAN, nECBP, nECBN, nINOP, nINON)	9
3.8 外部ドライブ操作信号 (nEXOP+, nEXOP-)	11
3.9 緊急停止入力信号 (EMG)	12
3.10 外部電源 (VEX)	12
3.11 PCIバスコネクタ	13
4 . 割り込み	15
5 . モータドライバ接続例	16
5.1 ステッピングモータドライバとの接続例	16
5.2 ACサーボドライバとの接続例	17
6 . 入出力信号タイミング	18
6.1 リセット時	18
6.2 独立ドライブ開始時	18
6.3 補間ドライブ時	18
6.4 入力パルスタイミング	19
エンコーダ2相パルス入力時	19
6.5 即停止タイミング	19
外部信号による即停止	19
命令による即停止	19
6.6 減速停止タイミング	19
外部信号による減速停止	19
命令による減速停止	20
7 . 基板外形	21
8 . インストール	22
8.1 パソコンへの本ボードの組み込み	22
8.2 デバイスドライバのインストール	22
8.2.1 Windows98/Me	23
8.2.2 WindowsNT	25
8.2.3 Windows2000/XP	26
8.3 取り外し	29
8.3.1 Windows98/Me	29
8.3.2 WindowsNT	29
8.3.3 Windows2000/XP	30
8.4 外部機器との接続時の注意	30
8.5 ライブラリのセットアップ	31
8.5.1 Microsoft Visual C++ でアプリケーションを開発する場合	31
8.5.2 Microsoft Visual Basic でアプリケーションを開発する場合	31
8.6 ソフトウェアの仕様	32
8.6.1 動作環境	32
8.6.2 プログラム構成	32

8.6.3 A P I	3 3
VC++ で使用する場合	3 3
VB で使用する場合	3 5
8.7 ソフトウェアの内容	3 7
9 . 仕様まとめ	3 8

1. 概要

MC8041Pは、補間機能付き4軸モータコントロールIC MCX314を搭載した、PC/AT互換機PCIバス対応の回路基板です。1ボードで4軸のサーボモータ、またはステッピングモータを各軸独立に位置決め制御または速度制御することができます。また、4軸中、任意の2軸または3軸を選択して、2軸/3軸直線補間、CW/CCW円弧補間、2軸/3軸ビットパターン補間(CPUからのビットデータによる補間)を行うことができます。

下図にMC8041Pの機能ブロック図を示します。MC8041Pは、MCX314をメインに、PCIバスのインターフェイスと、X、Y、Z、U各軸のI/Oインターフェイス回路から構成されています。従って、本回路基板の基本機能はすべてMCX314に依存していますので、これら機能動作の詳細についてはMCX314の取扱説明書を併せてご参照ください。



MC8041P 回路ブロック図

1.1 MCX314の持つ機能の制限

本ボードでは、基板面積およびI/Oコネクタの端子数の制約から、MCX314の持つ次の入/出力信号についてはサポートしていません。

BUSYN出力信号
EXPLSN入力信号
SCLK出力信号
nDIRVE出力信号
nOUT3~0汎用出力信号 (各軸のnOUT7~4の4点のみをバッファを介して出力しています。)

なお本ボードでは、MCX314のパルス入力方式のアップ/ダウンパルス入力モードは使用できません。

1.2 MC8041Aとの違い

MC8041PはMC8041AボードをPCI化したものです。I/Oインターフェイスに関しては、信号名、ピン配置などはMC8041Aと全く同じですが、機能向上のため下記の項目がMC8041Aと異なります。

ドライブパルス出力段のICの変更

ドライブパルス出力段のICをAM26LS31からAM26C31CNSに変更しています。これにより差動出力の電圧差が大きくなります。これに伴い、差動出力の正出力側に+5Vを出力する切り替え機能は廃止しています。

エンコーダ入力信号の高速フォトカプラICの変更

TLP2630から面実装タイプのTLP115Aに変更しています。スイッチング速度はTLP2630と同等です。

外部ドライブ操作信号の入力回路変更

MC8041Aでは外部ドライブ操作信号の入力段に0.1 μ Fと100k のCRフィルターを付けていましたが、高速操作したい要求が多いため、他の入力信号と同じ0.01 μ Fと3.3k のCRフィルターに変更しています。

1.3 PCIバスインターフェイス

I/O占有アドレス

本ボードでは、SA15~4をアドレスデコードし、SA3~1でMCX314の内部16ビットリード/ライトレジスタを選択します。PCIバスのI/O占有アドレスは、ボード当たり16バイト使用します。本ボードのI/Oアドレス指定は、Windows搭載のプラグアンドプレイ機能によって決定されます。

データ長

データ長は16ビットです。バイト単位のリード/ライトアクセスはできません。

割り込み信号

PCIバスへの割り込みを使用する場合は、Windows搭載のプラグアンドプレイ機能によって決定されるIRQを使用します。

1.4 各軸I/Oインターフェイス

ドライブパルス出力(nP+P/N, nP-P/N)

モータを駆動する+方向/-方向のドライブパルス出力は、1PPSから最高4MPPSのデューティ50%のパルスを出力します。各々の方向のドライブパルス出力信号は、AM26C31相当のラインドライバによる差動出力となっています。また、ジャンパ設定により、正出力側に+5V出力にすることも可能です。

汎用出力(nOUT7~4)

各軸4本の汎用出力があります。出力バッファは、SN74LS06相当品を使用し、オープンコレクタ出力です。サーボモータドライバの偏差カウンタクリア、サーボフリー、アラームリセットなどに使用することができます。

オーバランリミット入力(nLMT+, nLMT-)

+方向、-方向のそれぞれの出力パルスを禁止する入力信号です。モード設定でアクティブ時に即停止/減速停止を選択することができます。この入力信号はフォトカプラで内部回路とは絶縁されています。外部からDC12~24Vの電源供給が必要です。

減速停止/即停止入力(nIN3~1)

原点サーチ動作などにおいて、ドライブパルスを外部から減速停止または即停止させる入力信号です。有効/無効、アクティブ論理レベルをモード設定することができます。各軸3点用意されています。汎用入力信号としても使用することができます。この入力信号はフォトカプラで内部回路とは絶縁されています。

サーボモータ用入力(nINPOS, nALARM)

サーボモータドライバのINPOS(位置決め完了)信号、ALARM(アラーム)信号を入力します。汎用入力信号としても使用することができます。この入力信号はフォトカプラで内部回路とは絶縁されています。

エンコーダ入力 (nECAP/N, nECBP/N, nINOP/N)

エンコーダからの A / B 相信号、および Z 相信号を入力します。nECAP/N, nECBP/N 信号は、エンコーダの A / B 相信号のための入力で、MCX314 内部の 32 ビット実位置カウンタをカウントアップ / ダウンします。なお本ボードでは、MCX314 のアップ / ダウンパルス入力モードは使用できません。nINOP/N 信号は Z 相信号のための入力で、ドライブパルスを減速停止または即停止させる入力信号です。この入力信号は高速フォトカプラ IC で内部回路とは絶縁されています。差動出力のラインドライバとの接続が容易です。

外部ドライブ操作入力 (nEXOP+, nEXOP-)

外部から + 方向 / - 方向のドライブを起動する入力です。定量ドライブモードでは、入力信号のトリガ (立ち下がり) で指定ドライブパルスが出力されます。また、連続ドライブモードにすると、入力信号が Low レベルの間だけ、連続してドライブパルスを出し続けます。各軸のマニュアルジョグ送り等において、CPU の介在なしに応答性の速い軸送り動作が可能となります。この入力信号はフォトカプラで内部回路とは絶縁されています。

緊急停止入力 (EMG)

全軸のドライブを緊急停止させる入力信号です。ボード上のジャンパ選択でアクティブ論理レベルを設定することができます。この入力信号はフォトカプラで内部回路とは絶縁されています。

2. I/Oアドレス設定とリード/ライトレジスタ

ボードのI/Oポートアドレスは、PCIバスのプラグアンドプレイ機能(以下PnP機能)によって決定されます。1基板当たりI/Oアドレスを連続して16バイト必要とします。

パソコンのメインボードや、他のI/O拡張ボードで使用しているI/Oアドレスと重ならないように[システムのプロパティ][デバイスマネージャ]で確認してください。

下表にMCX314内のリード/ライトレジスタのI/Oアドレスを示します。I/Oアドレスの項の()内はPnP機能で0280~028Fhに設定されたときの、各レジスタのアドレスです。各々のレジスタは16ビット長です。必ずワードでアクセスしてください。バイトでのアクセスはできません。各レジスタの詳細は、MCX314取扱説明書4章を参照してください。

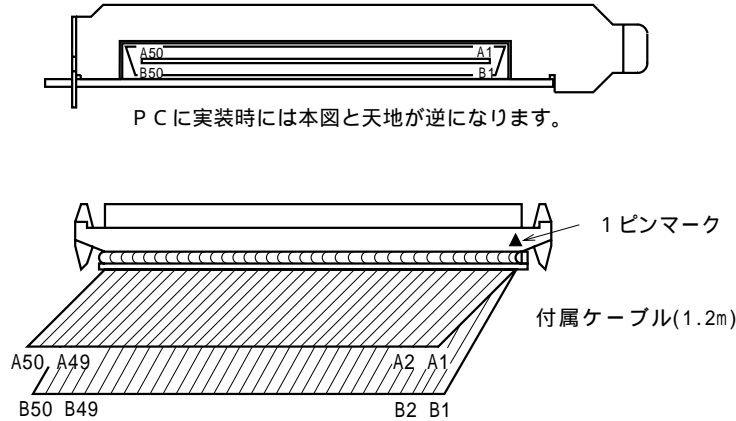
I/Oアドレス	ライトレジスタ		リードレジスタ		
	SA3 SA2 SA1	記号	レジスタ名	記号	レジスタ名
0 0 0 (0280h)		WR0	コマンドレジスタ	RR0	主ステータスレジスタ
0 0 1 (0282h)		XWR1 YWR1 ZWR1 UWR1	X軸モードレジスタ1 Y軸モードレジスタ1 Z軸モードレジスタ1 U軸モードレジスタ1	XRR1 YRR1 ZRR1 URR1	X軸ステータスレジスタ1 Y軸ステータスレジスタ1 Z軸ステータスレジスタ1 U軸ステータスレジスタ1
0 1 0 (0284h)		XWR2 YWR2 ZWR2 UWR2	X軸モードレジスタ2 Y軸モードレジスタ2 Z軸モードレジスタ2 U軸モードレジスタ2	XRR2 YRR2 ZRR2 URR2	X軸ステータスレジスタ2 Y軸ステータスレジスタ2 Z軸ステータスレジスタ2 U軸ステータスレジスタ2
		BP1P	B P 1 P レジスタ		
0 1 1 (0286h)		XWR3 YWR3 ZWR3 UWR3	X軸モードレジスタ3 Y軸モードレジスタ3 Z軸モードレジスタ3 U軸モードレジスタ3	XRR3 YRR3 ZRR3 URR3	X軸ステータスレジスタ3 Y軸ステータスレジスタ3 Z軸ステータスレジスタ3 U軸ステータスレジスタ3
		BP1M	B P 1 M レジスタ		
1 0 0 (0288h)		WR4	アウトプットレジスタ	RR4	インプットレジスタ1
		BP2P	B P 2 P レジスタ		
1 0 1 (028Ah)		WR5	補間モードレジスタ	RR5	インプットレジスタ2
		BP2M	B P 2 M レジスタ		
1 1 0 (028Ch)		WR6 BP3P	ライトデータレジスタ1 B P 3 P レジスタ	RR6	リードデータレジスタ1
1 1 1 (028Eh)		WR7 BP3M	ライトデータレジスタ2 B P 3 M レジスタ	RR7	リードデータレジスタ2

3. 入出力信号

この章では、I/Oコネクタの各入出力信号について記述します。信号の説明、およびインターフェース回路では、各軸の信号名をn と記述していますが、この"n"はX、Y、Z、およびUを表しています。

3.1 I/Oコネクタ

I/Oコネクタ ピン配置



付属ケーブルは、上図に示すように、コネクタの1ピンマーク（三角印）を右上にしたとき、上側ケーブルの右（赤線）から左に向かってA1A2,... A49A50、下側ケーブルの右（赤線）から左に向かってB1B2,... B49B50となります。

コネクタ型式：ボード側 FX2B-100P-1.27DS（ヒロセ），ケーブル側 FX2B-100S-1.27R（ヒロセ）

ピン	信号名	入/出	内 容	説明	ピン	信号名	入/出	内 容	説明
A1	VEX		外部電源（DC12～24V）	3.10	B1	VEX		外部電源（DC12～24V）	3.10
A2	EMG	入力	緊急停止（全軸共通）	3.9	B2				
A3	XLMT+	入力	X軸＋方向リミット	3.4	B3	ZLMT+	入力	Z軸＋方向リミット	3.4
A4	XLMT-	入力	X軸－方向リミット	3.4	B4	ZLMT-	入力	Z軸－方向リミット	3.4
A5	XIN1	入力	X軸減速停止／即停止	3.5	B5	ZIN1	入力	Z軸減速停止／即停止	3.5
A6	XIN2	入力	X軸減速停止／即停止	3.5	B6	ZIN2	入力	Z軸減速停止／即停止	3.5
A7	XIN3	入力	X軸減速停止／即停止	3.5	B7	ZIN3	入力	Z軸減速停止／即停止	3.5
A8	YLMT+	入力	Y軸＋方向リミット	3.4	B8	ULMT+	入力	U軸＋方向リミット	3.4
A9	YLMT-	入力	Y軸－方向リミット	3.4	B9	ULMT-	入力	U軸－方向リミット	3.4
A10	YIN1	入力	Y軸減速停止／即停止	3.5	B10	UIN1	入力	U軸減速停止／即停止	3.5
A11	YIN2	入力	Y軸減速停止／即停止	3.5	B11	UIN2	入力	U軸減速停止／即停止	3.5
A12	YIN3	入力	Y軸減速停止／即停止	3.5	B12	UIN3	入力	U軸減速停止／即停止	3.5
A13	XINPOS	入力	X軸サーボ位置決め完了	3.6	B13	ZINPOS	入力	Z軸サーボ位置決め完了	3.6
A14	XALARM	入力	X軸サーボアラーム	3.6	B14	ZALARM	入力	Z軸サーボアラーム	3.6
A15	XECAP	入力	X軸エンコーダA相	3.7	B15	ZECAP	入力	Z軸エンコーダA相	3.7
A16	XECAN	入力	X軸エンコーダA相	3.7	B16	ZECAN	入力	Z軸エンコーダA相	3.7
A17	XECBP	入力	X軸エンコーダB相	3.7	B17	ZECBP	入力	Z軸エンコーダB相	3.7
A18	XECBN	入力	X軸エンコーダB相	3.7	B18	ZECBN	入力	Z軸エンコーダB相	3.7
A19	XINOP	入力	X軸エンコーダZ相	3.7	B19	ZINOP	入力	Z軸エンコーダZ相	3.7
A20	XINON	入力	X軸エンコーダZ相	3.7	B20	ZINON	入力	Z軸エンコーダZ相	3.7
A21	YINPOS	入力	Y軸サーボ位置決め完了	3.6	B21	UINPOS	入力	U軸サーボ位置決め完了	3.6
A22	YALARM	入力	Y軸サーボアラーム	3.6	B22	UALARM	入力	U軸サーボアラーム	3.6
A23	YECAP	入力	Y軸エンコーダA相	3.7	B23	UECAP	入力	U軸エンコーダA相	3.7
A24	YECAN	入力	Y軸エンコーダA相	3.7	B24	UECAN	入力	U軸エンコーダA相	3.7
A25	YECBP	入力	Y軸エンコーダB相	3.7	B25	UECBP	入力	U軸エンコーダB相	3.7
A26	YECBN	入力	Y軸エンコーダB相	3.7	B26	UECBN	入力	U軸エンコーダB相	3.7
A27	YINOP	入力	Y軸エンコーダZ相	3.7	B27	UINOP	入力	U軸エンコーダZ相	3.7
A28	YINON	入力	Y軸エンコーダZ相	3.7	B28	UINON	入力	U軸エンコーダZ相	3.7
A29	XEXOP+	入力	X軸＋方向ドライブ操作	3.8	B29	ZEXOP+	入力	Z軸＋方向ドライブ操作	3.8
A30	XEXOP-	入力	X軸－方向ドライブ操作	3.8	B30	ZEXOP-	入力	Z軸－方向ドライブ操作	3.8
A31	YEXOP+	入力	Y軸＋方向ドライブ操作	3.8	B31	UEXOP+	入力	U軸＋方向ドライブ操作	3.8
A32	YEXOP-	入力	Y軸－方向ドライブ操作	3.8	B32	UEXOP-	入力	U軸－方向ドライブ操作	3.8
A33	GND		内部回路GND		B33	GND		内部回路GND	
A34	XOUT4	出力	X軸汎用出力	3.3	B34	ZOUT4	出力	Z軸汎用出力	3.3
A35	XOUT5	出力	X軸汎用出力	3.3	B35	ZOUT5	出力	Z軸汎用出力	3.3

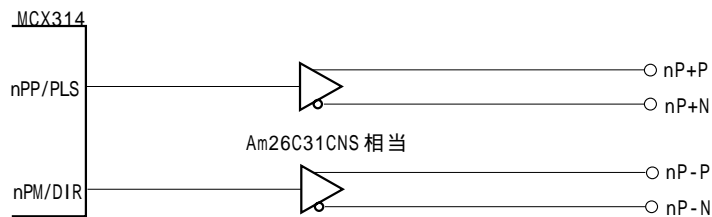
ピン	信号名	入/出	内 容	説明	ピン	信号名	入/出	内 容	説明
A36	XOUT6	出力	X軸汎用出力	3.3	B36	ZOUT6	出力	Z軸汎用出力	3.3
A37	XOUT7	出力	X軸汎用出力	3.3	B37	ZOUT7	出力	Z軸汎用出力	3.3
A38	XP+P	出力	X軸+方向ドライブパルス	3.2	B38	ZP+P	出力	Z軸+方向ドライブパルス	3.2
A39	XP+N	出力	X軸+方向ドライブパルス	3.2	B39	ZP+N	出力	Z軸+方向ドライブパルス	3.2
A40	XP-P	出力	X軸-方向ドライブパルス	3.2	B40	ZP-P	出力	Z軸-方向ドライブパルス	3.2
A41	XP-N	出力	X軸-方向ドライブパルス	3.2	B41	ZP-N	出力	Z軸-方向ドライブパルス	3.2
A42	GND		内部回路GND		B42	GND		内部回路GND	
A43	YOUT4	出力	Y軸汎用出力	3.3	B43	UOUT4	出力	U軸汎用出力	3.3
A44	YOUT5	出力	Y軸汎用出力	3.3	B44	UOUT5	出力	U軸汎用出力	3.3
A45	YOUT6	出力	Y軸汎用出力	3.3	B45	UOUT6	出力	U軸汎用出力	3.3
A46	YOUT7	出力	Y軸汎用出力	3.3	B46	UOUT7	出力	U軸汎用出力	3.3
A47	YP+P	出力	Y軸+方向ドライブパルス	3.2	B47	UP+P	出力	U軸+方向ドライブパルス	3.2
A48	YP+N	出力	Y軸+方向ドライブパルス	3.2	B48	UP+N	出力	U軸+方向ドライブパルス	3.2
A49	YP-P	出力	Y軸-方向ドライブパルス	3.2	B49	UP-P	出力	U軸-方向ドライブパルス	3.2
A50	YP-N	出力	Y軸-方向ドライブパルス	3.2	B50	UP-N	出力	U軸-方向ドライブパルス	3.2

注意 :I/Oコネクタにケーブルを挿抜する場合は、まずパソコンの電源をOFFの状態にし、ケーブルに供給している外部電源(DC+24V等)をOFFにしてから挿抜して下さい。尚、ケーブルを挿入する場合はコネクタの向きに注意し、逆挿しにならないようにして下さい。パソコンや外部電源がONのまま接続した場合、基板の内部回路等が破損する場合があります。

3.2 ドライブパルス出力信号 (nP+P, nP+N, nP-P, nP-N)

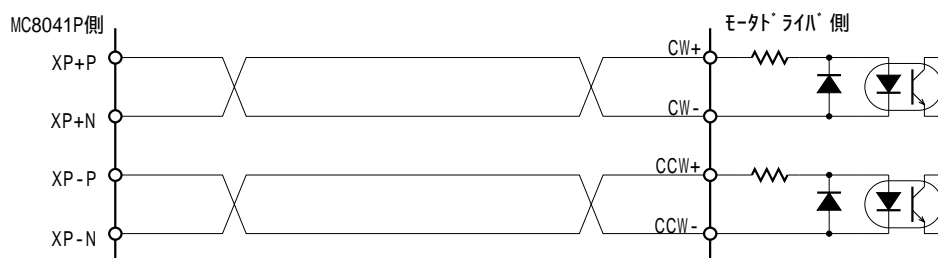
ドライブパルス出力信号は、MCX314の+方向/-方向のドライブパルス信号を差動出力のラインドライバ (AM26C31相当) を介して出力しています。nP+NはnP+Pの反転出力、nP-NはnP-Pの反転出力です。リセット時には、正出力 (nP+P, nP-P) がLowレベル、反転出力 (nP+N, nP-N) がHiレベルになっています。

ドライブパルス出力は、リセット直後は+/-方向の独立2パルス方式になっていますが、モード設定によって方向・1パルス方式にすることもできます。MCX314取扱説明書2.6.2節、4.5節を参照してください。

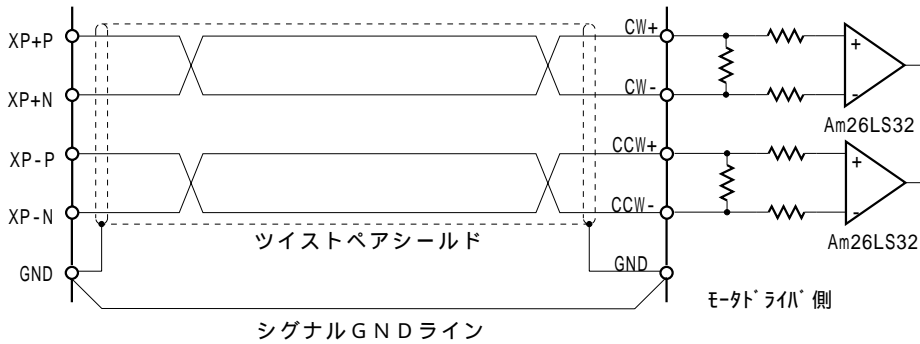


ドライブパルス出力信号回路

下図にフォトカブラ入力回路およびラインレシーバ入力回路を持つモータドライバとの接続例を示します。



フォトカブラ入力回路のモータドライバとの接続例



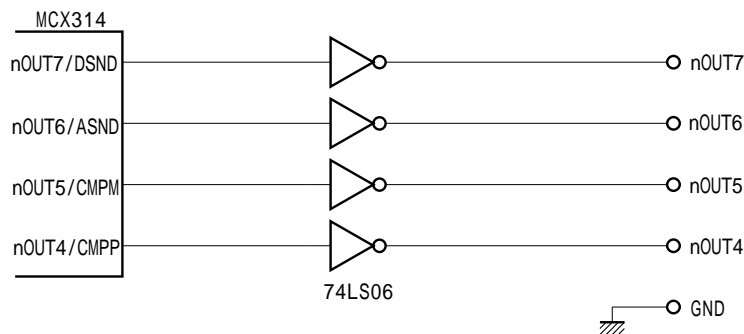
ラインレシーバ入力回路のモータドライバとの接続例

注意1. ラインレシーバ入力回路を使用する場合の注意

上記のように、ラインレシーバ入力回路を使用する場合は、ラインドライバ側とモータドライバ側をシグナルGNDラインで接続して下さい。機器間のシグナルGNDの電位差に相違があると、ドライバ回路、モータドライバ回路の損傷に繋がることがあります。上図のようにシグナルGNDを別途結んでご使用下さい。

3.3 汎用出力信号 (nOUT7, nOUT6, nOUT5, nOUT4)

汎用出力信号は、MCX314のnOUT7/DSND, nOUT6/ASND, nOUT5/CMPM, nOUT4/CMPP信号を、バッファ (74LS06) を介して出力しています。リセット時には、各出力ともOFF状態になっています。

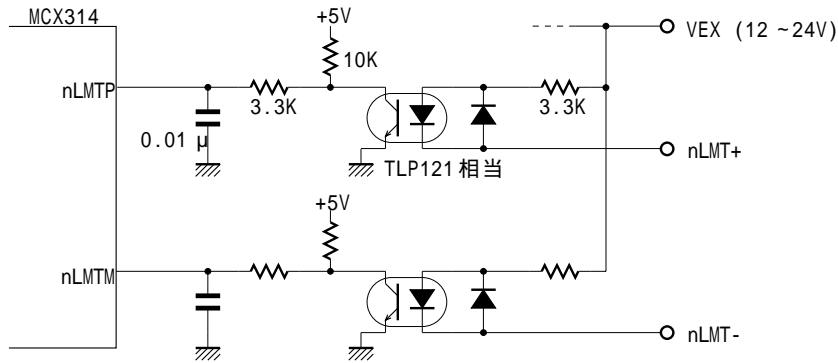


汎用出力信号回路

汎用出力信号は、モータドライバの偏差カウンタクリア、アラームリセット、励磁OFF信号などに使用することができます。また、モード選択でドライブ加速中/減速中、位置カウンタとコンペアレジスタの大小状態を出力することができます。汎用出力信号の設定については、MCX314取扱説明書2.6.8節、4.6節を参照してください。また、ドライブ加速中/減速中出力については2.6.7節、4.6節を、位置カウンタとコンペアレジスタの大小状態出力については2.3節、4.6節を参照してください。

3.4 オーバランリミット入力信号 (nLMT+, nLMT-)

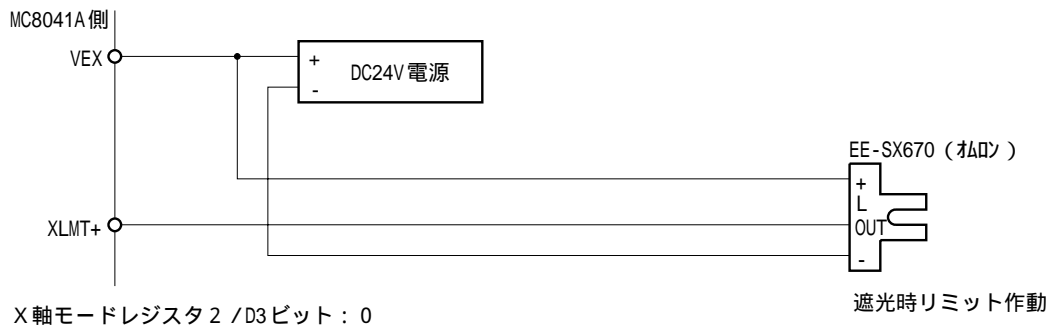
+方向、-方向のそれぞれのドライブパルスを抑止する入力信号です。この入力信号はフォトカプラとCR積分フィルタ回路を通してMCX314のリミット入力に接続されています。この信号を動作させるには、外部からDC12~24Vの電源供給が必要です。MCX314のモード設定で、論理レベル、および即停止/減速停止を選択することができます。リセット直後は、MCX314はLowレベルでアクティブになりますので、信号端子 (nLMT+, nLMT-) より電流が流出するときリミット機能が作動します。モード設定の詳細は、MCX314取扱説明書4.5節を参照してください。



オーバランリミット入力信号回路

本回路の応答時間は、フォトカブラ、およびCRフィルタの遅延のため、0.2~0.4mSEC程度あります。

下図にオーバランリミット入力信号をフォトマイクロセンサに接続する例を示します。X軸のモードレジスタ2 (XWR2) のD3ビットを0 (リセット時のモード) にすると、遮光時にリミット機能が作動します。



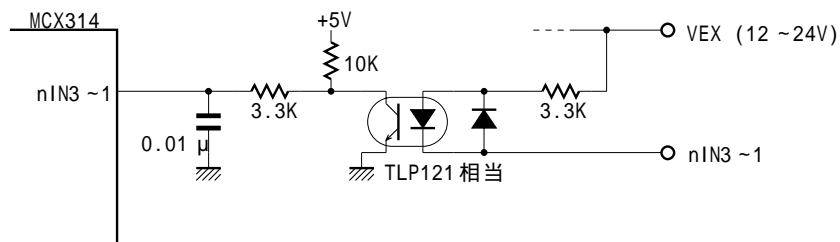
オーバランリミット入力信号とフォトマイクロセンサとの接続例

配線を長く引き回す場合は、シールド線を使用してください。

3.5 減速停止 / 即停止入力信号 (nIN1, nIN2, nIN3)

ドライブパルス出力を途中で減速停止または即停止させるための3点の入力信号です。MCX314は各軸ともIN3~IN0の4点持っていますが、本ボードでは、IN0はエンコーダZ相のためのインターフェイス回路が組まれています。nIN1, nIN2, nIN3信号は原点、原点近傍などの入力信号として使用します。それぞれ有効/無効、論理レベルをモード設定することができます。有効にモード設定すると、ドライブの途中で本信号がアクティブになるとドライブパルス出力を停止します。加減速ドライブ中であれば減速停止、定速ドライブ中であれば即停止します。リセット直後は、全信号が無効になっています。例えば、X軸IN3信号において、XWR1レジスタD7, D6ビットを1, 0にセットし、Lowレベルで有効にすると、本ボードのXIN3信号端子より電流が流出するとドライブが停止します。モード設定の詳細は、MCX314取扱説明書4.4節を参照してください。

この信号を動作させるには、外部からDC12~24Vの電源供給が必要です。また、この信号はインプットレジスタ1, 2 (RR4, 5)で信号状態を常時読み出せますので汎用入力としても使用することができます。



減速停止 / 即停止入力信号回路

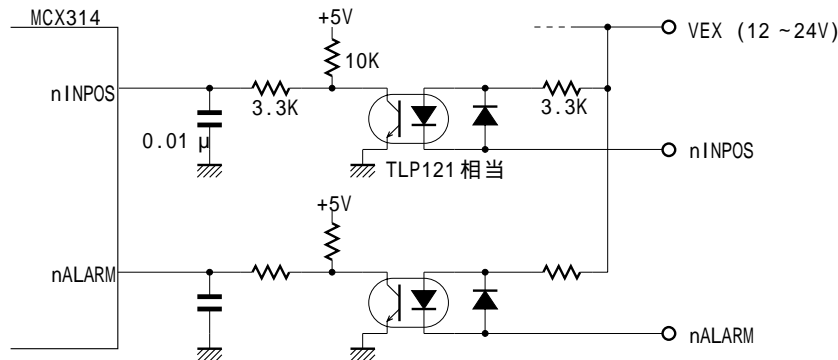
本回路の応答時間は、フォトカブラ、およびCRフィルタの遅延のため、0.2~0.4mSEC程度あります。

3.6 サーボモータ用入力信号 (nINPOS, nALARM)

nINPOS入力信号はサーボモータドライバのインポジション（位置決め完了）出力に対応する入力です。MCX314のモード設定で有効/無効、論理レベルを選択します。有効に設定すると、ドライブ終了後、この信号がアクティブになるのを待ってから主ステータスレジスタ(RR0)のn-DRVビットが0に戻ります。

nALARM入力信号はサーボモータドライバのアラーム出力に対応します。モード設定で有効/無効、論理レベルを選択します。有効に設定すると、nALARM入力信号を常に監視し、アクティブ状態の場合はステータスレジスタ2 (nRR2)のALARMビットに1が立ちます。ドライブ中にアクティブレベルになると、ドライブは即停止されます。

リセット直後は、両信号とも無効になっています。nINPOS入力信号については、MCX314のモードレジスタ2 (nWR2)のD15,14ビットを1,0にセットし、Lowレベルで有効にすると、本ボードのnINPOS信号端子より電流が流出する状態を待ってから、RR0レジスタのn-DRVビットが0に戻ります。また、nALARM入力信号については、nWR2レジスタのD13,12ビットを1,0にセットし、Lowレベルで有効にすると、本ボードのnALARM信号端子より電流が流出するときアラーム状態になります。詳細は、MCX314取扱説明書の2.6.5節、4.5節を参照してください。



サーボモータ用入力信号回路

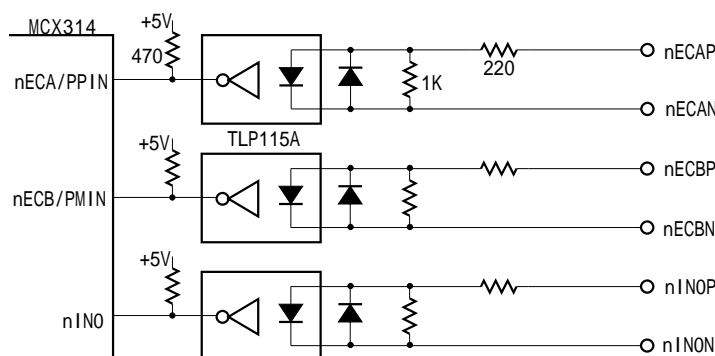
この信号を動作させるには、外部からDC12~24Vの電源供給が必要です。本回路の応答時間は、フォトカップラ、およびCRフィルタの遅延のため、0.2~0.4mSEC程度あります。

また、サーボモータ用入力信号はインプットレジスタ1,2 (RR4,5)で信号状態を常時読み出せますので汎用入力としても使用することができます。

3.7 エンコーダ入力信号 (nECAP, nECAN, nECBP, nECBN, nINOP, nINON)

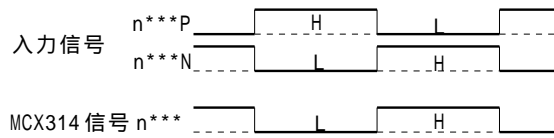
nECAP/N, nECBP/N入力信号はエンコーダの2相出力信号、またはサーボモータドライバのエンコーダ2相出力信号を接続して、MCX314の実位置カウンタをカウントするための入力です。詳細は、MCX314取扱説明書の2.3.1節、2.6.3節、4.5節を参照してください。なお、MCX314のUP/DOWNパルス入力モードでは使用できませんのでご注意ください。

nINOP/N入力信号はエンコーダ、またはサーボモータドライバのZ相出力信号を接続して、ドライブパルス出力を途中で停止させるための入力です。有効/無効、論理レベルをモード設定することができます。有効にモード設定すると、ドライブの途中で本信号がアクティブになるとドライブパルス出力を停止します。

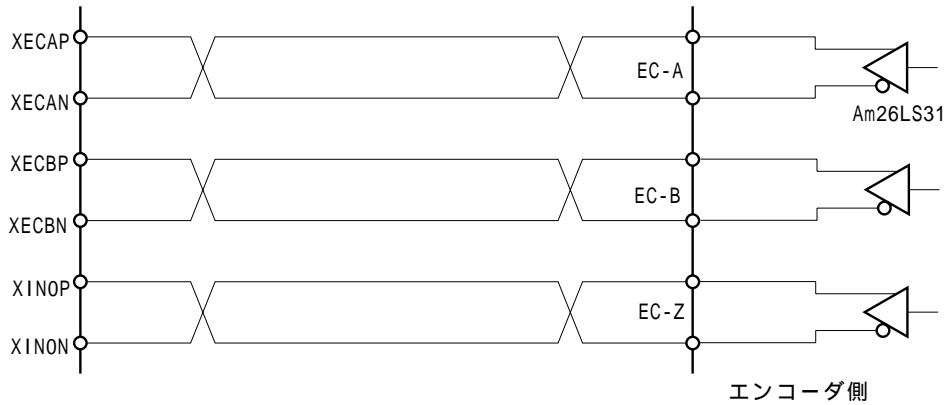


エンコーダ入力信号回路

エンコーダ入力信号回路は、上図に示すように、高速フォトカプラ IC TLP115A (東芝) を使用しています。各入力信号は差動出力のラインドライバとの直結が可能です。下図に示すように、n***P/N信号がH/LのときMCX314のn***信号がLowになり、L/HのときHiになります。入力からMCX314信号端子までの遅延時間は100nSEC以下ですので、2相パルス入力の場合であれば最高4MHzまでカウントできます。

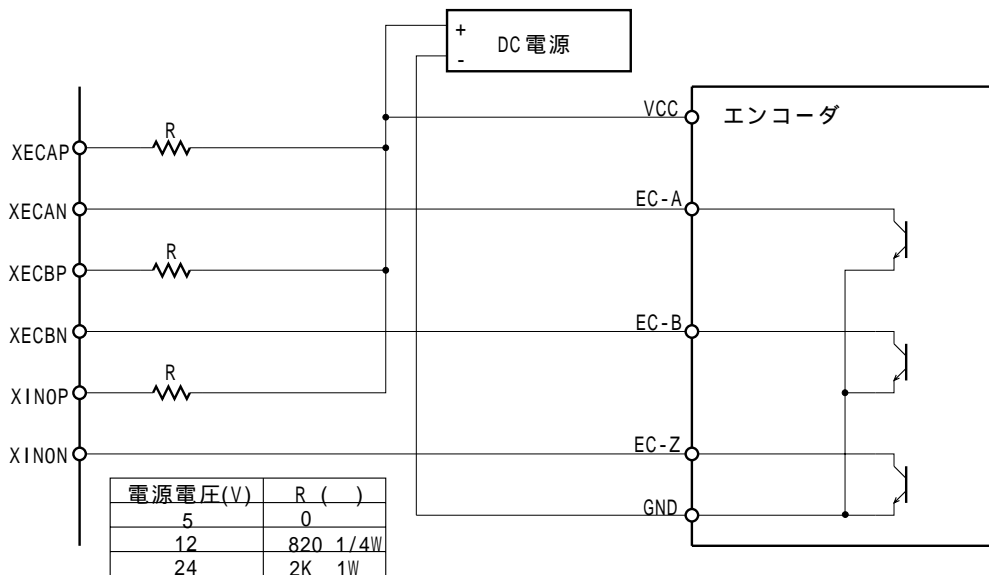


下図にエンコーダ入力信号と差動出力のラインドライバとの接続例を示します。



差動出力のラインドライバとの接続例

下図はエンコーダ入力信号とオープンコレクタ出力のエンコーダとの接続例です。

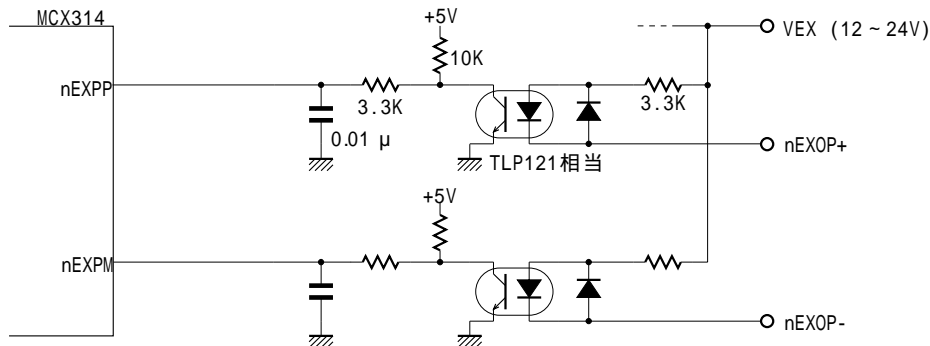


オープンコレクタ出力との接続例

3.8 外部ドライブ操作信号 (nEXOP+, nEXOP-)

外部から + 方向 / - 方向のドライブを起動する入力です。定量ドライブモードでは、入力信号のトリガ (立ち上がり) で指定ドライブパルスが出力されます。また、連続ドライブモードにすると、入力信号がLowレベルの間だけ、連続してドライブパルスを出し続けます。各軸のマニュアルジョグ送り等において、CPUの介在なしに軸送り動作が可能となります。外部ドライブ信号を有効にするには、MCX314のモード設定が必要です。詳細は、MCX314取扱説明書の2.6.1節、4.6節を参照してください。

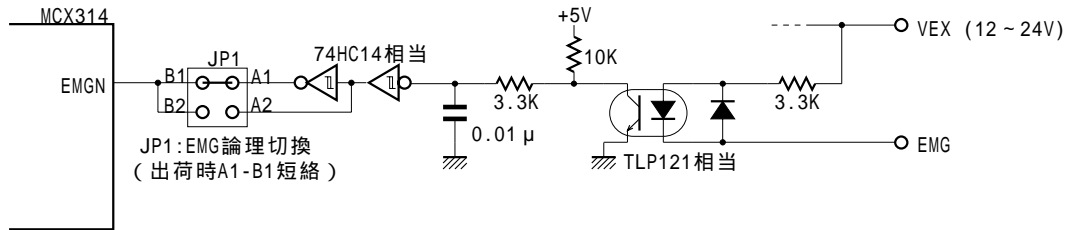
この信号を動作させるには、外部からDC12~24Vの電源供給が必要です。本回路の応答時間は、フォトカプラ、およびCRフィルタの遅延のため、0.2~0.4mSEC程度あります。



外部ドライブ操作信号回路

3.9 緊急停止入力信号 (EMG)

緊急停止信号がアクティブレベルになると全軸のドライブパルス出力が停止します。アクティブレベルはボード内の J P 1 ジャンパー端子で切り替えることができます。ドライブ中に緊急停止信号がアクティブになると、すべての軸のドライブは即停止し、主ステータスレジスタの全軸のエラービットに 1 が立ちます。MCX314の緊急停止については、MCX314取扱説明書の2.6.6節、4.12節を参照してください。



緊急停止入力信号回路

緊急停止信号を動作させるには、外部からDC12~24Vの電源供給が必要です。本回路の応答時間は、フォトカプラ、およびC R フィルタの遅延のため、0.2~0.4mSEC程度あります。

- 左図は J P 1 ジャンパーのピン配置を示しています。
- | | |
|----|----|
| A1 | A2 |
| ○ | ○ |
| ○ | ○ |
- B1 B2
JP1
- A1 - B1間短絡：緊急停止信号(EMG)が外部電源のGNDと短絡状態になるとアクティブレベルになります。
 - A2 - B2間短絡：緊急停止信号(EMG)がオープン状態になるとアクティブレベルになります。
- 出荷時は、A1 - B1間短絡になっています。

3.10 外部電源 (VEX)

外部電源は、各軸のオーバランリミット入力信号 (nLMT+,nLMT-)、減速停止 / 即停止入力信号 (nIN1,nIN2,nIN3)、サーボモータ入力信号 (nINPOS,nALARM)、外部ドライブ操作信号 (nEXOP+,nEXOP-)、および緊急停止入力信号 (EMG) を動作させるために、外部から供給する電源です。DC 12V ~ 24V の範囲の電源を供給してください。入力信号 1 点あたりの消費電流は、DC 12V の場合 3.3mA、DC 24V の場合 7mA です。

3.11 P C I バスコネクタ

ピン	信号名	内 容	信号出力時の駆動方法	入出力方向	
				マスタ	ターゲット
A1	TRST#	テストリセット		入力	入力
A2	+12V	電源		入力	入力
A3	TMS	テストモードセレクト		入力	入力
A4	TDI	テストデータ入力		入力	入力
A5	+5V	電源		入力	入力
A6	INTA#	割り込み要求 A	オープン・ドレイン	出力	出力
A7	INTC#	割り込み要求 C	オープン・ドレイン	出力	出力
A8	+5V	電源		入力	入力
A9		予約			
A10	+5V	電源		入力	入力
A11		予約			
A12	GND	グランド		入力	入力
A13	GND	グランド		入力	入力
A14		予約			
A15	RST#	リセット		入力	入力
A16	+5V	電源		入力	入力
A17	GNT#	グランド	トライ・ステート	入力	
A18	GND	グランド		入力	入力
A19		予約			
A20	AD30	アドレスデータ30	トライ・ステート	入/出	入/出
A21	+3.3V	電源		入力	入力
A22	AD28	アドレスデータ28	トライ・ステート	入/出	入/出
A23	AD26	アドレスデータ26	トライ・ステート	入/出	入/出
A24	GND	グランド		入力	入力
A25	AD24	アドレスデータ24	トライ・ステート	入/出	入/出
A26	IDSEL	イニシャライゼーション デバイスセレクト		入力	入力
A27	+3.3V	電源		入力	入力
A28	AD22	アドレスデータ22	トライ・ステート	入/出	入/出
A29	AD20	アドレスデータ20	トライ・ステート	入/出	入/出
A30	GND	グランド		入力	入力
A31	AD18	アドレスデータ18	トライ・ステート	入/出	入/出
A32	AD16	アドレスデータ16	トライ・ステート	入/出	入/出
A33	+3.3V	電源		入力	入力
A34	FRAME#	サイクルフレーム	サスティンド・トライ・ステート	出力	入力
A35	GND	グランド		入力	入力
A36	TRDY#	ターゲットレディ	サスティンド・トライ・ステート	入力	出力
A37	GND	グランド		入力	入力
A38	STOP#	ストップ	サスティンド・トライ・ステート	入力	出力
A39	+3.3V	電源		入力	入力
A40	SDONE	スヌープ完了		入/出	入/出
A41	SBO#	スヌープバックオフ		入/出	入/出
A42	GND	グランド		入力	入力
A43	PAR	パリティ	トライ・ステート	入/出	入/出
A44	AD15	アドレスデータ15	トライ・ステート	入/出	入/出
A45	+3.3V	電源		入力	入力
A46	AD13	アドレスデータ13	トライ・ステート	入/出	入/出
A47	AD11	アドレスデータ11	トライ・ステート	入/出	入/出
A48	GND	グランド		入力	入力
A49	AD9	アドレスデータ9	トライ・ステート	入/出	入/出
A50		キーウェイ			
A51		キーウェイ			
A52	C/BE0#	バスコマンド・バイトイネーブル0	トライ・ステート	出力	入力
A53	+3.3V	電源		入力	入力
A54	AD6	アドレスデータ6	トライ・ステート	入/出	入/出
A55	AD4	アドレスデータ4	トライ・ステート	入/出	入/出
A56	GND	グランド		入力	入力
A57	AD2	アドレスデータ2	トライ・ステート	入/出	入/出
A58	AD0	アドレスデータ0	トライ・ステート	入/出	入/出
A59	+5V	電源		入力	入力
A60	REQ64#	64ビット転送要求	サスティンド・トライ・ステート	出力	入力
A61	+5V	電源		入力	入力
A62	+5V	電源		入力	入力

ピン	信号名	内容	信号出力時の駆動方法	入出力方向	
				マスタ	ターゲット
B1	-12V	電源		入力	入力
B2	TCK	テストクロック		入力	入力
B3	GND	グランド		入力	入力
B4	TDO	テストデータ出力		出力	出力
B5	+5V	電源		入力	入力
B6	+5V	電源		入力	入力
B7	INTB#	割り込み要求 B	オープン・ドレイン	出力	出力
B8	INTD#	割り込み要求 D	オープン・ドレイン	出力	出力
B9	PRSNT1#				
B10		予約			
B11	PRSNT2#				
B12	GND	グランド		入力	入力
B13	GND	グランド		入力	入力
B14		予約			
B15	GND	グランド		入力	入力
B16	CLK	クロック		入力	入力
B17	GND	グランド		入力	入力
B18	REQ#	リクエスト	トライ・ステート	出力	
B19	+5V	電源		入力	入力
B20	AD31	アドレスデータ31	トライ・ステート	入/出	入/出
B21	AD29	アドレスデータ29	トライ・ステート	入/出	入/出
B22	GND	グランド		入力	入力
B23	AD27	アドレスデータ27	トライ・ステート	入/出	入/出
B24	AD25	アドレスデータ25	トライ・ステート	入/出	入/出
B25	+3.3V	電源		入力	入力
B26	C/BE3#	バスコマンド・バイトイネーブル3	トライ・ステート	出力	入力
B27	AD23	アドレスデータ23	トライ・ステート	入/出	入/出
B28	GND	グランド		入力	入力
B29	AD21	アドレスデータ21	トライ・ステート	入/出	入/出
B30	AD19	アドレスデータ19	トライ・ステート	入/出	入/出
B31	+3.3V	電源		入力	入力
B32	AD17	アドレスデータ17	トライ・ステート	入/出	入/出
B33	C/BE2#	バスコマンド・バイトイネーブル2	トライ・ステート	出力	入力
B34	GND	グランド		入力	入力
B35	IRDY#	イニシエータ・レディ	サスティンド・トライ・ステート	出力	入力
B36	+3.3V	電源		入力	入力
B37	DEVSEL#	デバイス・セレクト	サスティンド・トライ・ステート	入力	出力
B38	GND	グランド		入力	入力
B39	LOCK#	ロック	サスティンド・トライ・ステート	出力	入力
B40	PERR#	パリティ・エラー	サスティンド・トライ・ステート	入/出	入力
B41	+3.3V	電源		入力	入力
B42	SERR#	システム・エラー	オープン・ドレイン	出力	出力
B43	+3.3V	電源		入力	入力
B44	C/BE1#	バスコマンド・バイトイネーブル1	トライ・ステート	出力	入力
B45	AD14	アドレスデータ14	トライ・ステート	入/出	入/出
B46	GND	グランド		入力	入力
B47	AD12	アドレスデータ12	トライ・ステート	入/出	入/出
B48	AD10	アドレスデータ10	トライ・ステート	入/出	入/出
B49	GND	グランド		入力	入力
B50		キーウェイ			
B51		キーウェイ			
B52	AD8	アドレスデータ8	トライ・ステート	入/出	入/出
B53	AD7	アドレスデータ7	トライ・ステート	入/出	入/出
B54	+3.3V	電源		入力	入力
B55	AD5	アドレスデータ5	トライ・ステート	入/出	入/出
B56	AD3	アドレスデータ3	トライ・ステート	入/出	入/出
B57	GND	グランド		入力	入力
B58	AD1	アドレスデータ1	トライ・ステート	入/出	入/出
B59	+5V	電源		入力	入力
B60	ACK64#	64ビット転送アクノリッジ	サスティンド・トライ・ステート	入力	出力
B61	+5V	電源		入力	入力
B62	+5V	電源		入力	入力

信号名に#の付いている信号は負論理を表します。

4 . 割り込み

本ボードでは、MCX314で発生する割り込み信号を、P C Iバスの4本の割り込み要求信号の内 I N T A # に接続しています。MCX314内で割り込みが発生すると本ボードの割り込み要求信号はHiレベルからLowレベルに変化します。割り込みを発生した軸のステータスレジスタ3 (nRR3) を読み出すことにより、割り込み要求信号はLowからHiに戻ります。

MCX314の割り込み発生機能については、MCX314取扱説明書2.5節、4.4節、4.13節を参照してください。

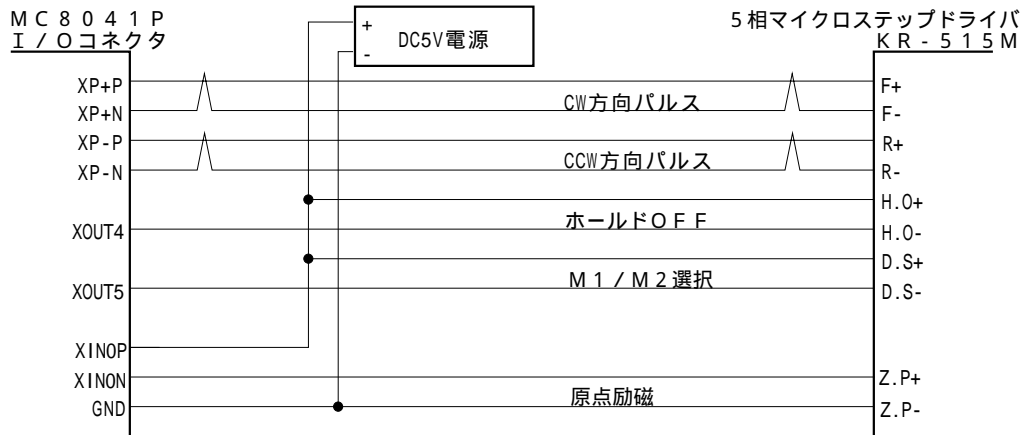
【割り込みを使用する場合の注意】

本ボードからの割り込み信号出力は、PnP機能によってI R Q番号が決定されます。またPnP機能とWindowsの機能によって同じ割り込み要求信号を他のデバイスと共用しますが、通常はWindowsによって管理されるため競合は発生しません。

5. モータドライバ接続例

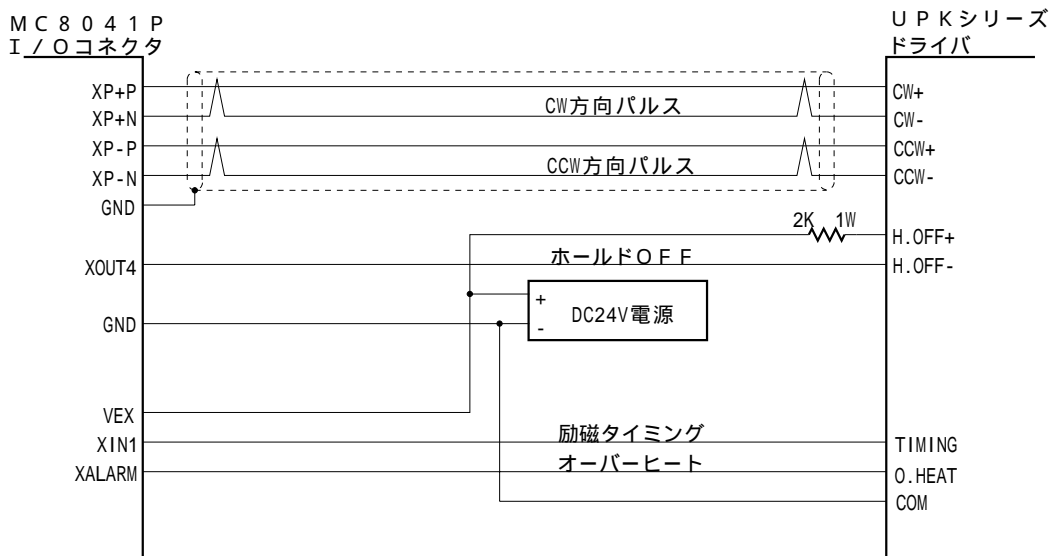
5.1 ステッピングモータドライバとの接続例

下図は、MC8041PのX軸とテクノドライブ製の5相マイクロステップドライバKR515Mとの接続例を示しています。



注1：ホールドOFF、M1/M2選択、原点励磁信号は必要に応じて配線します。ホールドOFF信号、M1/M2選択信号は、MCX314のWR3レジスタのD8,D9ビットに0,1を書き込むことによって制御します。原点励磁信号は、WR1レジスタのD0,1ビットをモード設定して、原点検出動作を行わせることができます。また、原点励磁信号は、RR4,5レジスタを通して直接信号レベルを読み出すことができます。

下図は、MC8041PのX軸とオリエンタルモータ製UPKシリーズのステッピングモータドライバとの接続例を示しています。

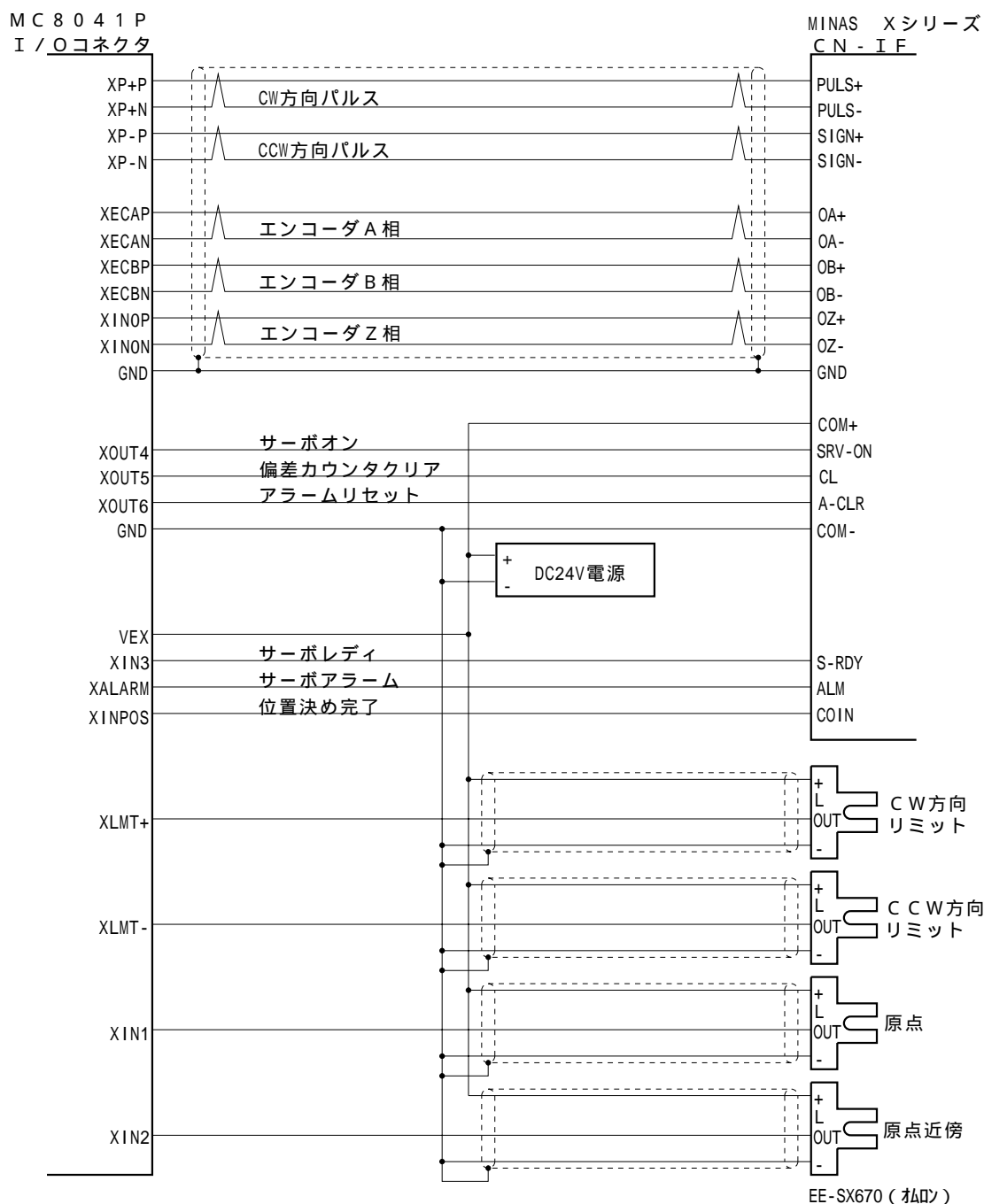


注1：ホールドOFF、励磁タイミング、オーバーヒート信号は必要に応じて配線します。ホールドOFF信号は、MCX314のWR3レジスタのD8ビットに0,1を書き込むことによって制御します。励磁タイミング信号は、WR1レジスタのD0,1ビットをモード設定して、原点検出動作を行わせることができます。オーバーヒート信号は、WR2レジスタのD12,13ビットをモード設定してアラーム機能を働かせることができます。また、励磁タイミング、オーバーヒート信号は、RR4,5レジスタを通して直接信号レベルを読み出すことができます。

注2：強いノイズ環境下、あるいはドライバまでの距離が長い場合は、上図のようにツイストペアシールド線を推奨します。

5.2 ACサーボモータドライバとの接続例

下図は、MC8041PのX軸とMINAS XシリーズACサーボモータドライバとの接続例を示しています。



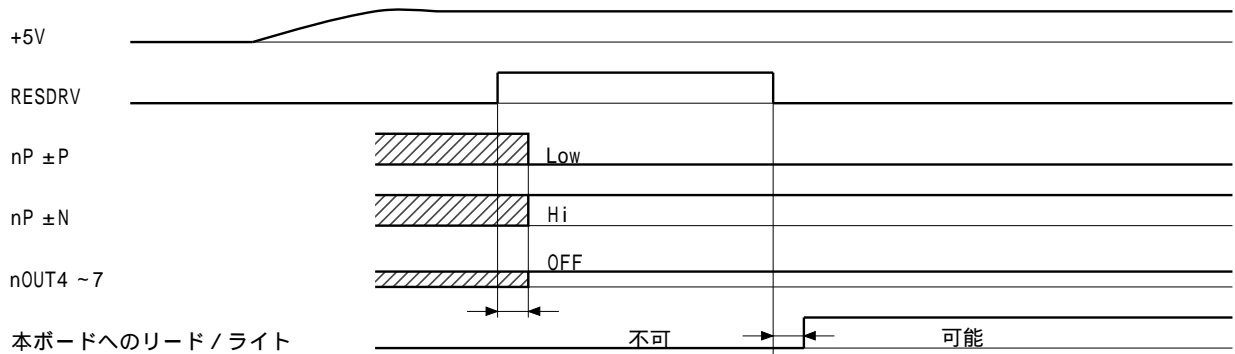
注1：ドライバの制御モード設定は位置制御モードに、指令パルス形態はCW/CCWパルスモードにパラメータセットします。指令パルス形態をパルス/符号モードにすると、t6時間が不足しますので適当ではありません。

注2：エンコーダA/B相信号はMCX314内で実位置カウンタをカウントさせる場合に接続します。CPU側で実位置データを必要としなければ接続する必要はありません。その他の信号も必要に応じて接続します。

注3：強いノイズ環境下、あるいはドライバまでの距離が長い場合は、上図のようにツイストペアシールド線を推奨します。

6. 入出力信号タイミング

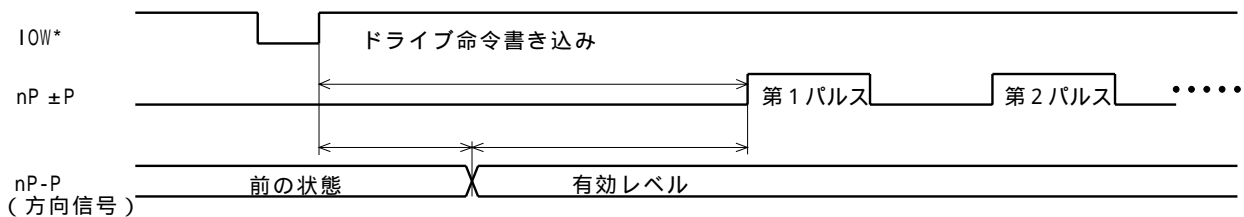
6.1 リセット時



ドライブパルス出力信号 (nP ±P, nP ±N)、および汎用出力信号 (nOUT4 ~7) は、ISAバスのリセット信号 (RESDRV) の から最大 250 nSEC以内に確定します。

本ボードへの書き込み / 読み出しは、リセット信号 (RESDRV) の から 500 nSEC後から可能になります。

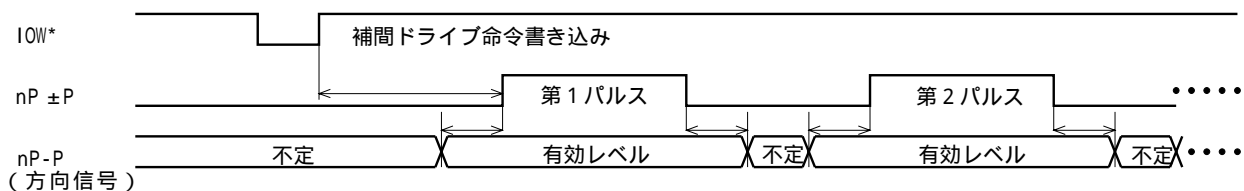
6.2 独立ドライブ開始時



ドライブ命令が書き込まれてから最大 650 nSEC以内に第1ドライブパルスが出力されます。

ドライブ出力パルス方式を1パルス方式にしたときは、ドライブ命令書き込み後最大 275 nSEC以内に方向信号 (nP-P) が有効レベルになり、方向信号が有効レベルになってから 375 nSEC後に第1ドライブパルスが出力されます。

6.3 補間ドライブ時

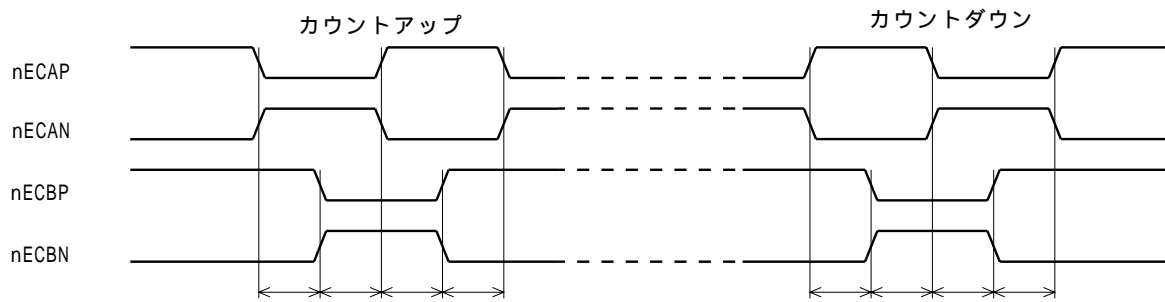


補間ドライブ時は、補間ドライブ命令が書き込まれてから最大 775 nSEC以内に第1ドライブパルスが出力されます。

ドライブ出力パルス方式を1パルス方式にしたときは、方向信号 (nP-P) は各ドライブパルスHiレベル期間とその前後 125 nSECの間だけ有効レベルとなります。(ドライブパルス：正論理パルスのとき)

6.4 入力パルスタイミング

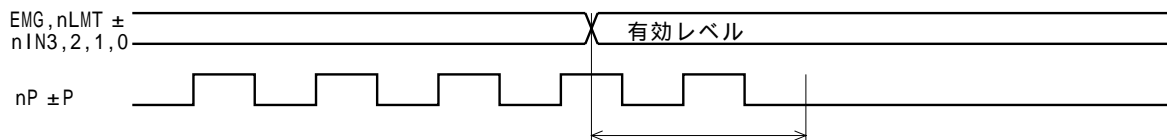
エンコーダ 2 相パルス入力時



(EC-A, EC-B 位相差時間) : 最小 200 nSEC

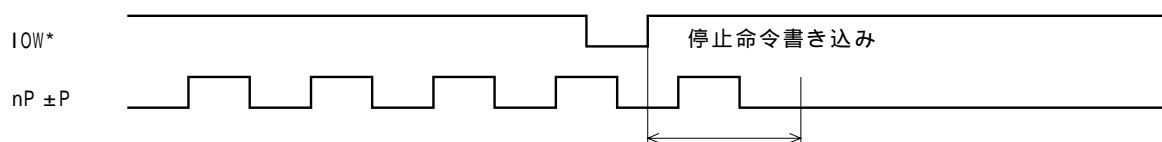
6.5 即停止タイミング

外部信号による即停止



ドライブ途中で外部停止信号が有効レベルになると、最大 400 μ SEC + 1 ドライブパルス後に停止します。

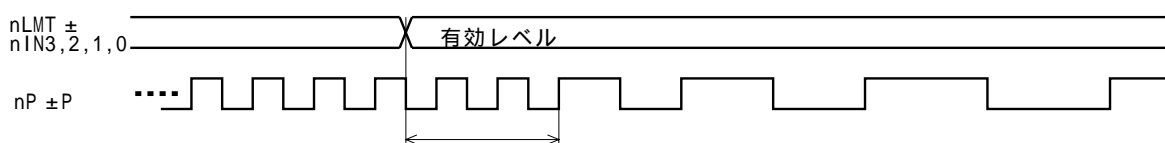
命令による即停止



ドライブ途中で停止命令が書き込まれると、最大 1 ドライブパルス後に停止します。

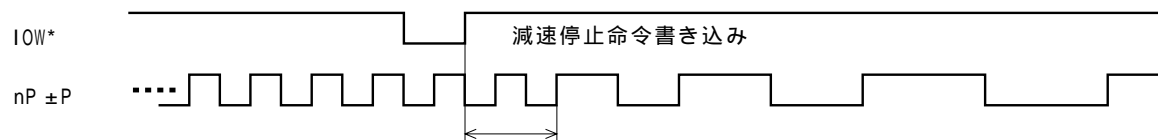
6.6 減速停止タイミング

外部信号による減速停止



ドライブ途中で外部減速停止信号が有効レベルになると、最大 400 μ SEC + 2 ドライブパルス後に減速を開始します。

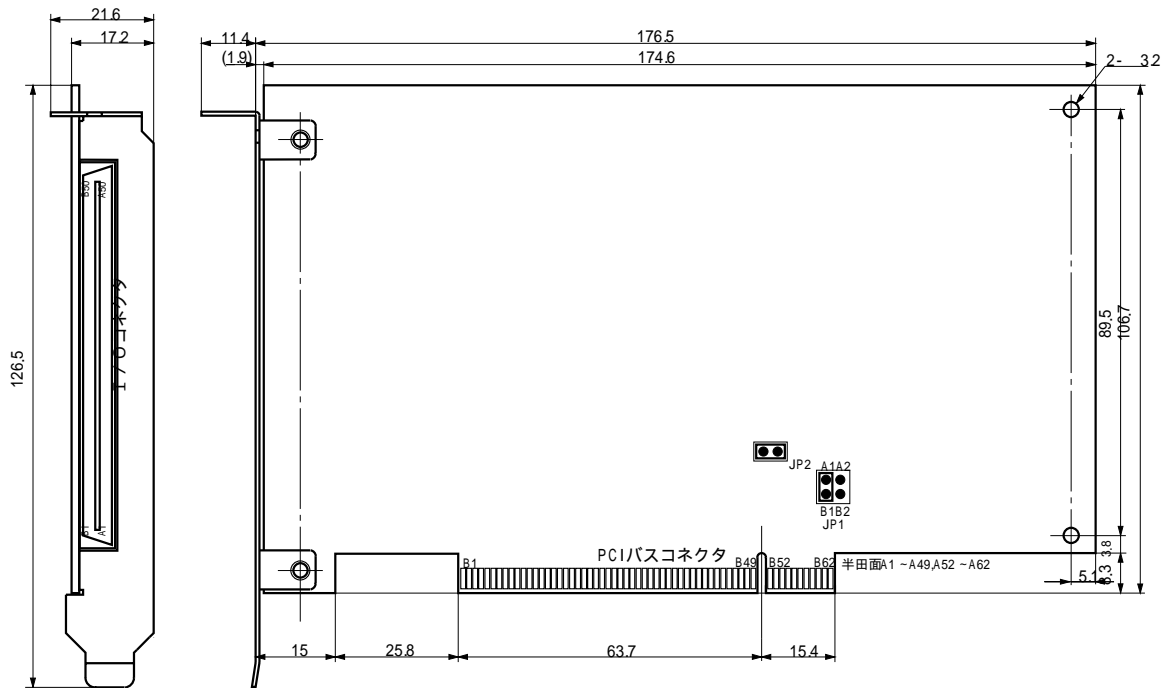
命令による減速速止



ドライブ途中で減速停止命令が書き込まれると、最大2ドライブパルス後に減速を開始します。

7. 基板外形

単位：mm



- JP1: 緊急停止信号(EMG)のアクティブ論理を選択します。
 A1-B1短絡：信号をGNDと短絡するとアクティブになります。
 A2-B2短絡：信号オープンでアクティブになります。
- JP2: 1-2短絡（出荷時の状態）のままにしておいてください。

8. インストール

この章では、本ボードのパソコンへの組込みとドライバのインストール及びアプリケーション開発のためのライブラリの使用方法について説明します。

8.1 パソコンへの本ボードの組込み

パソコン本体の電源がOFFであることを確認してから、外装カバー、スロットカバー等を外します。

空いている拡張スロットへ本製品を差し込みます。基板のエッジコネクタをパソコンのPCIバスコネクタに正しく挿入してください。

取付金具をネジ止めしてください。この時キチンとねじを締めないと後で抜け落ちたりするなどして、ショートや故障、誤動作の原因となります。

パソコン本体の外装カバーを元通りに取り付けます。

注意：パソコンへの取り付け作業は必ずパソコンの電源を切断してから行ってください。さもないと回路素子を破壊する原因となります。

8.2 デバイスドライバのインストール

本デバイスドライバは 8.6.1 動作環境 で対応する全ての言語に共通です。

本デバイスドライバは本ボードを同時に10枚まで認識します。

注意1：本デバイスドライバは Ver 7.0 前と Ver 7.0 以降では互換性がありません。主な違いは

Ver 7.0 前：複数枚使用の上限は4枚

Ver 7.0 以降：複数枚使用の上限を10枚に増加し、割込処理の方法が変更となっております。

尚 Ver 7.0 前と以降のドライバソフトを

Ver 7.0 前：MC8041P ソフトウェア

Ver 7.0 以降：MC8041P ソフトウェア (N)

と識別しております。

注意2：新たにプログラムを作成する場合は、最新 Ver のデバイスドライバを使用してください。Ver 7.0 前のデバイスドライバで開発したプログラムを使用する場合は次の2通りの方法があります。

Ver 7.0 前のデバイスドライバで開発したプログラムを、Ver 7.0 前のデバイスドライバと組み合わせて使用する。

Ver 7.0 前のデバイスドライバで開発したプログラムを、Ver 7.0 以降のデバイスドライバと組み合わせて使用する。この場合は、割込処理の記述について変更する必要があります。割込処理以外においても、タイミング時間等の確認の上ご使用ください。また、プログラムの再コンパイルが必要になります。

尚 Ver 7.0 前のデバイスドライバをご使用のお客様で、Ver 7.0 前のデバイスドライバの入手をご希望する場合はお買い求めの販売店または弊社までご請求ください。

注意3：本デバイスドライバ Ver 7.0 前と Ver 7.0 以降では互換性が無く、同一パソコンでの共存はできません。Ver 7.0 前から最新 Ver へデバイスドライバをバージョンアップする場合や再インストールをする場合は旧デバイスドライバをパソコン内から削除してから再インストールする必要があります。

注意4：デバイスドライバのインストール後、基板のスロット位置を変えたり、基板を追加した場合は、OS が基板を認識しているか必ず確認してください。認識していない場合は、認識できなかった基板に対応するデバイスドライバを一旦削除し、再インストールをして下さい。

< 本ボードを複数枚使用する場合 >

本ボードを1つのシステム(PC)で複数枚ご使用になる時は、PCIバス上でそれぞれのボードを個別に認識させる為に、2枚以降のボードはIDを書き換えたものを使用しなければなりません。ご注文に際して下表の様に型名を指定してください。

	型名
1枚目	MC8041P
2枚目	MC8041P - 2
3枚目	MC8041P - 3
⋮	⋮
⋮	⋮
10枚目	MC8041P - 10

なお、MC8041P購入後、増設ボード用にIDを書き換えることも、下記の2つの方法で可能です。

弊社に書き換えを依頼する。

ID書き換え用ソフトウェアツールを弊社より入手し、お客様側でIDを書き換える。

8.2.1 Windows98/Me

今回はWindows98を例にとって説明しますが、基本的にWindowsMeも同様に操作してください。

まず8.1によって本ボードが確実にパソコンに組み込まれているか確認してください。

パソコン本体の電源をONし、Windows98/Meを起動します。

デバイスドライバの自動検出を促すメッセージが出力されますので、「ドライバの場所を指定する（詳しい知識のある方向け）」にチェックをして[次へ]をクリックします。



検索場所の指定にチェックしてテキストボックスへ A:\Driver\98 と入力して[次へ]をクリックします。



[MC8041P Device]が検出できたら[次へ]をクリックします。



デバイスドライバのコピーが完了すると、メッセージが出ますので[完了]をクリックします。



以上でデバイスドライバのインストールは完了です。デバイスドライバのインストール完了後はパソコンの起動時に手順 のようにハードウェアウィザードが起動することはありません。もしハードウェアウィザードが起動するような場合はインストールが正常に終了していない可能性がありますので、その場合は8.3の手順に従って一度本ボードを取り外した後に8.1の手順から再度インストールをやり直してください。

再度インストールする場合は MC8041P.dll のファイルをパソコン内より削除してから再インストールする必要があります。

インストールを完了したらリソース(I/Oアドレス、割り込みレベル)の設定、競合の有無を[コントロールパネル]-[システム]-[デバイスマネージャ]タブで確認してください。



8.2.2 WindowsNT

デバイスドライバのインストールは必ずアドミニストレーター権限をもったユーザーログインで行ってください。アドミニストレーター権限以外でインストールをした場合正常にインストールされません。

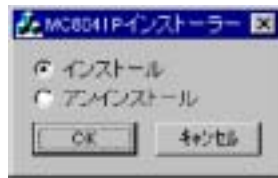
まず8.1によって本ボードが確実にパソコンに組み込まれているか確認してください。

パソコン本体の電源をONし、WindowsNTを起動します。

アドミニストレーター権限を持ったユーザーでログインしてください。

次に %WinNT フォルダにある install.exe を実行してください。[スタート]-[ファイル名を指定して実行]か、またはエクスプローラーから直接実行できます。

下のように表示されますので「インストール」を選択して [OK]を押して次に進んでください。



もしこのときにWindowsNTのドライバフォルダが標準のインストール(通常は%WinNT\System32\Driver)でない場合は各自でMC8041P.SYS ファイルをシステムドライバフォルダへコピーしてください。

次に下のように表示されたら [OK] を押してください。これでデバイスドライバーのインストールは終了です。



最後にNTを再起動して下さい。

再起動したら、NTの場合は[コントロールパネル]-[デバイス]でMC8041Pが開始状態になっていることを確認してください。なっていない場合はインストールが正常に終了していない可能性がありますので、その場合は8.3の手順に従って一度本ボードを取り外した後に8.1の手順から再度インストールをやり直してください。

再度インストールする場合は MC8041P.dll のファイルをパソコン内より削除してから再インストールする必要があります。



8.2.3 Windows2000/XP

デバイスドライバのインストールは必ずアドミニストレーター権限をもったユーザーログインで行ってください。アドミニストレーター権限以外でインストールをした場合正常にインストールされません。

Windows2000を例にとって説明しますが、基本的にWindowsXPも同様に操作してください。

まず8.1によって本ボードが確実にパソコンに組み込まれているか確認してください。

パソコン本体の電源をONし、Windows2000/XPを起動します。

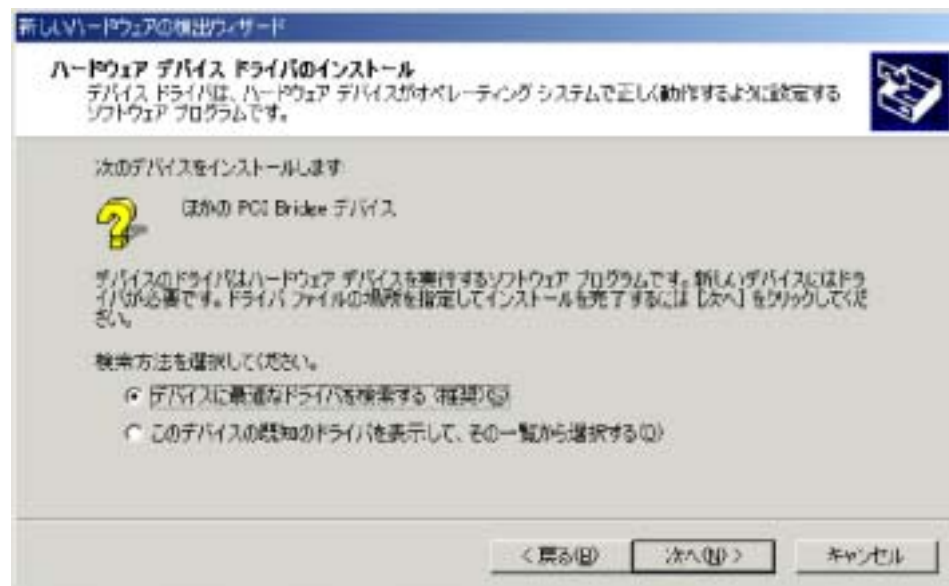
アドミニストレーター権限を持ったユーザーでログインしてください。

すぐに「新しいハードウェアが発見されました」と表示されデバイスドライバのインストールが開始されます。

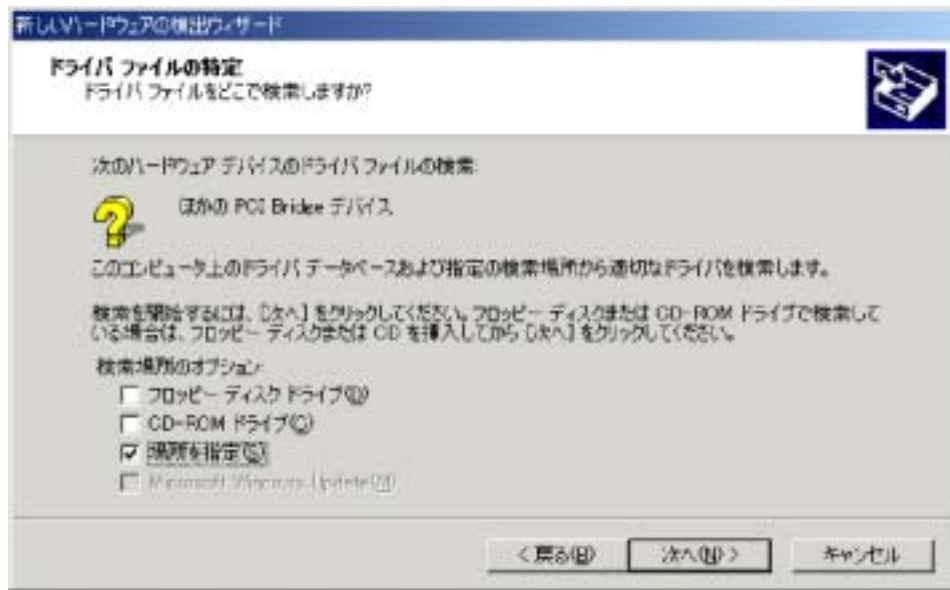
すぐに「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示され「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」が出ますので[次へ]をクリックします。



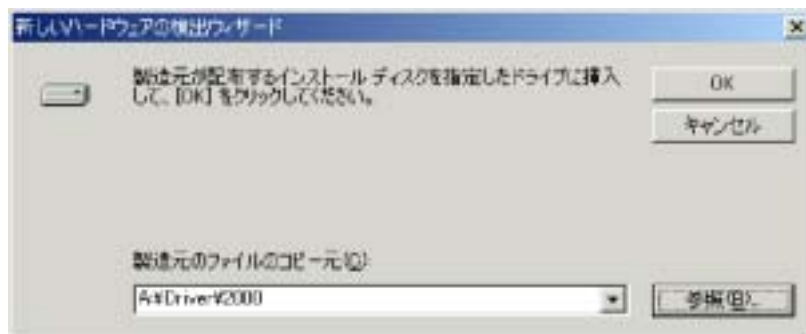
「ハードウェアデバイスドライバのインストール」が表示され、デバイスドライバの自動検出を促す画面が出ますので、「デバイスに最適なドライバを検出する(推奨)」にチェックして[次へ]をクリックします。



検索場所の指定が出ますので[場所を指定]にチェックして[次へ]をクリックします。



下のような画面が出ますので A:¥Driver¥2000 (XPの場合はA:¥Driver¥XP)と入力してOKを押してください。



デバイスドライバの情報ファイルが発見されると確認の画面が出ますので、フロッピーの場所が正しいことを確認して、[次へ]をクリックします。

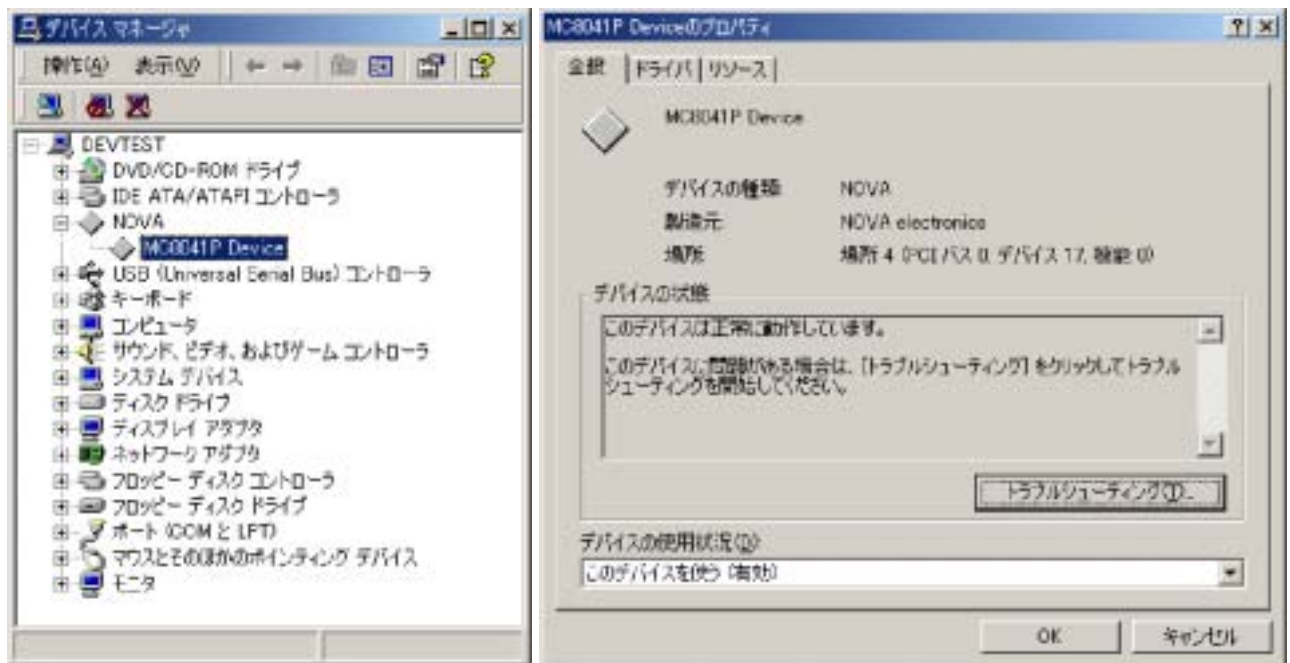


デバイスドライバのインストールが正常に完了すると、メッセージが出ますので、[完了]をクリックします。



以上でデバイスドライバのインストールは完了です。デバイスドライバのインストール完了後はパソコンの起動時に手順 のようにハードウェアウィザードが起動することはありません。もしハードウェアウィザードが起動するような場合はインストールが正常に終了していない可能性がありますので、その場合は8.3の手順に従って一度本ボードを取り外した後に8.1の手順から再度インストールをやり直してください。

再度インストールする場合は MC8041P.dll のファイルをパソコン内より削除してから再インストールする必要があります。インストールを完了したらリソース(I/Oアドレス、割り込みレベル)の設定、競合の有無を[コントロールパネル]-[システム]-[ハードウェア]-[デバイスマネージャ]の[プロパティ]で確認してください。



8.3 取り外し

8.3.1 Windows98/Me

まず[コントロールパネル]-[システム]-[デバイスマネージャ]タブで本製品のデバイスドライバを削除してください。パソコン本体の電源がOFFであることを確認してから、外装カバー、スロットカバー等を外します。ボードを止めているビスを外します。本ボードを指先でつまんで軽く左右にゆするようしながら引き出します。パソコン本体の電源をONし、Windows98/Meを起動します。[コントロールパネル]-[システム]-[デバイスマネージャ]タブで本製品が削除されていることを確認してください。

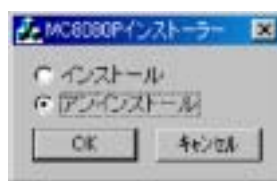


8.3.2 WindowsNT

デバイスドライバーのアンインストールは必ずアドミニストレーター権限をもったユーザーログインで行ってください。アドミニストレーター権限以外でアンインストールをした場合正常にアンインストールされません。

まず、%Driver%NT フォルダにある install.exe を実行してください。[スタート]-[ファイル名を指定して実行]か、またはエクスプローラーから直接実行できます。

下のように表示されますので「アンインストール」を選択して[OK]を押して次に進んでください。



次に下のように表示されたら[OK]を押してアンインストーラーを終了してください。



パソコン本体の電源がOFFであることを確認してから、外装カバー、スロットカバー等を外します。ボードを止めているビスを外します。本ボードを指先でつまんで軽く左右にゆするようしながら引き出します。パソコン本体の電源をONし、WindowsNTを起動します。[コントロールパネル]-[デバイス]でMCS041Pが削除されていることを確認してください。

8.3.3 Windows2000/XP

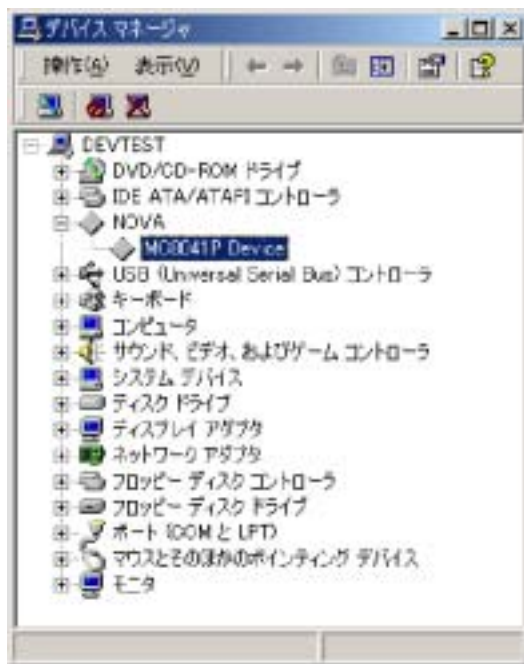
まず[コントロールパネル]-[システム]-[ハードウェア]-[デバイスマネージャ]で本製品のデバイスドライバを削除してください。パソコン本体の電源がOFFであることを確認してから、外装カバー、スロットカバー等を外します。

ボードを止めているビスを外します。

本ボードを指先でつまんで軽く左右にゆするようにながら引き出します。

パソコン本体の電源をONし、Windows2000/XPを起動します。

[コントロールパネル]-[システム]-[デバイスマネージャ]タブで本製品が削除されていることを確認してください。



8.4 外部機器との接続時の注意

本製品を外部機器と接続して動作させる場合には以下の点に注意してください。

出力信号は出力信号同士や他の機器の出力信号と接続しないで下さい。故障の原因となります。

出力信号を外部電源と短絡すると故障の原因となります。

誤動作時の安全確保のため必ずリミットスイッチ入力を本ボードと外部機器間で接続してください。

モータを駆動する前に必ず配線などに間違いがないか十分に確認してください。

モータと装置を切り離れた状態でモータの回転、リミットスイッチの動作を必ず確認してからご使用ください。

サージ電圧の入力は本ボードの故障の原因となる場合があります。

入 / 出力信号の接続

外部電源や入力 / 出力信号の接続において、極性を逆にしたり、定格範囲を越えた電圧 / 電流を印加すると、回路素子を破壊したり、動作の信頼性を低下させる原因となります。十分配線を確認の上、接続してください。

I / Oケーブルの処置

付属の I / Oケーブルは 1.2 m の長さですが、A33 ~ A50、および B33 ~ B50 の信号はパソコン内部と同じ回路系の入出力信号線ですので、周囲からの電磁誘導ノイズを極力受けけないよう十分配慮し、必要最小の長さでご使用ください。

8.6 ソフトウェアの仕様

8.6.1 動作環境

対応OS Windows98 WindowsNT Windows2000 WindowsXP

対応言語 Microsoft Visual C++ 5.0 以降
Microsoft Visual Basic 5.0 以降

8.6.2 プログラム構成

プログラム構成 種類	フォルダ	ファイル名	説明
デバイスドライバ	Driver¥98	MC8041P.SYS	Windows98/Me用デバイスドライバ本体
		MC8041P.DLL	ダイナミックリンクライブラリ VC++,VB共通
	Driver¥NT	MC8041P.SYS	WindowsNT用デバイスドライバ本体
		MC8041P.DLL	ダイナミックリンクライブラリ VC++,VB共通
	Driver¥2000	MC8041P.SYS	Windows2000用デバイスドライバ本体
		MC8041P.DLL	ダイナミックリンクライブラリ VC++,VB共通
Driver¥XP	MC8041P.SYS	Windows2000用デバイスドライバ本体	
	MC8041P.DLL	ダイナミックリンクライブラリ VC++,VB共通	
ライブラリ	Lib¥VC6	MC8041P.LIB	MC8041P.DLLを使用するためのライブラリ VC++専用
		MC8041P.H	MC8041P.DLLを使用するためのヘッダ定義ファイル VC++専用
VC++サンプルプログラム	Sample¥VC6Sample	SampleA.cpp	サンプルプログラムA: リミット入力表示、論理位置カウンタ表示、定量ドライブ操作例
		SampleB.cpp	サンプルプログラムB: 割り込みを使用したプログラム例
		SampleC.cpp	サンプルプログラムC:複数枚対応 リミット入力表示、論理位置カウンタ表示、定量ドライブ操作例
		SampleD.cpp	サンプルプログラムD:複数枚対応 割り込みを使用したプログラム例
		VCSample.dsp	VCサンプルプログラム用プロジェクトファイル (VC6のみ)
VBサンプルプログラム	Sample¥VB6Sample	Module1.bas	FormAの標準モジュール
		FormA.frm	サンプルプログラムA: リミット入力表示、論理位置カウンタ表示、定量ドライブ操作例
		Module2.bas	FormCの標準モジュール
		FormC.frm	サンプルプログラムC: リミット入力表示、論理位置カウンタ表示、定量ドライブ操作例
		VBSample.vpb	VBサンプルプログラム用プロジェクトファイル (VB6のみ)

備考: VC++のMFC AppWizardが自動的に作成するファイルに関しては説明を省略いたします、又ドライバセットアップ時のみ使用されるファイルも省略いたします。

8.6.3 A P I

MC8041P.SYS MC8041P.DLL がアプリケーションに提供する A P I

V C++ でプログラミングする場合 (MC8041Pを 1 枚で使用する場合)

関数名	機 能 内 容
OpenCard	<p>MC8041Pの使用を開始する。複数枚のMC8041Pを使用するときは自動的に1枚目に対して使用開始を通知します。</p> <p>入力パラメータ： void WINAPI 割り込み処理関数アドレス 戻り値： オープンに成功するとドライバのハンドルが戻る、失敗するとNULL</p> <p>使用例： <pre>status = OpenCard(isr); // 割り込みを使用し、割り込み関数に isr を指定した場合 status = OpenCard(NULL); // 割り込みを使用しない場合</pre></p>
CloseCard	<p>MC8041Pの使用を終了する。複数枚のMC8041Pを使用するときは自動的に1枚目に対して使用終了を通知します。</p> <p>入力パラメータ： なし 戻り値： クローズに成功するとTRUE、失敗するとFALSE</p> <p>使用例： <pre>CloseCard();</pre></p>
OutW	<p>出力ポートに1ワード書き込む。複数枚のMC8041Pを使用するときは自動的に1枚目に対して1ワード書き込みをします。</p> <p>入力パラメータ： WORD ライトレジスタ番号 (WR0 ~ WR7) int 書き込むデータ 戻り値： なし</p> <p>使用例： <pre>OutW(WR0, 0x8000); // ボードのソフトリセット</pre></p> <p>注意： ライトレジスタ番号の指定はヘッダ定義ファイルに宣言されている WR0 ~ WR7 を使用してください。</p>
InW	<p>入力ポートから1ワード読み出す。複数枚のMC8041Pを使用するときは自動的に1枚目に対して1ワード読み込みをします。</p> <p>入力パラメータ： WORD リードレジスタ番号 (RR0 ~ RR7) 戻り値： 入力ポートから読み込んだ1ワード</p> <p>使用例： <pre>data = InW(RR0); // リードレジスタ RR0 の読み出し</pre></p> <p>注意： リードレジスタ番号の指定はヘッダ定義ファイルに宣言されている RR0 ~ RR7 を使用してください。</p>
ReadRR3	<p>MC8041Pが割り込みイベントを発生した直後のRR3の値(読出し後クリア)</p> <p>入力パラメータ： WORD * X軸のRR3を格納する変数へのポインタ WORD * Y軸のRR3を格納する変数へのポインタ WORD * Z軸のRR3を格納する変数へのポインタ WORD * U軸のRR3を格納する変数へのポインタ 戻り値： なし</p> <p>使用例： <pre>ReadRR3(&Rr3X, &Rr3Y, &Rr3Z, &Rr3U);</pre></p> <p>注意： MC8041Pが割り込みを発生した直後ドライバ内でRR3を読み出してしまうのでRR3はクリアされてしまいます、割り込み発生直後のRR3を確認する場合はこの関数を使用してください。</p>

V C++ でプログラミングする場合 (MC8041Pを複数枚で使用する場合)

関数名	機能内容
OpenCard_N	<p>MC8041Pの使用を開始する。</p> <p>入力パラメータ : int 使用開始するMC8041Pの番号 void WINAPI 割り込み処理関数アドレス</p> <p>戻り値 : オープンに成功するとドライバのハンドルが戻る、失敗するとNULL</p> <p>使用例 : status = OpenCard_N(1, isr); //1枚目のボードに対し割り込みを使用し //割り込み関数に isr を指定した場合 status = OpenCard_N(1, NULL); //割り込みを使用しない場合</p>
CloseCard_N	<p>MC8041Pの使用を終了する。</p> <p>入力パラメータ : int 使用開始するMC8041Pの番号</p> <p>戻り値 : クローズに成功するとTRUE、失敗するとFALSE</p> <p>使用例 : CloseCard_N(1);</p>
OutW_N	<p>出力ポートに1ワード書き込む。</p> <p>入力パラメータ : int 使用開始するMC8041Pの番号 WORD ライトレジスタ番号 (WR0 ~ WR7) int 書き込むデータ</p> <p>戻り値 : なし</p> <p>使用例 : OutW_N(1, WR0, 0x8000); // ボードのソフトリセット</p> <p>注意 : ライトレジスタ番号の指定はヘッダ定義ファイルに宣言されている WR0 ~ WR7 を使用してください。</p>
InW_N	<p>入力ポートから1ワード読み出す。</p> <p>入力パラメータ : int 使用開始するMC8041Pの番号 WORD リードレジスタ番号 (RR0 ~ RR7)</p> <p>戻り値 : 入力ポートから読み込んだ1ワード</p> <p>使用例 : data = InW_N(1, RR0); // リードレジスタ RR0 の読み出し</p> <p>注意 : リードレジスタ番号の指定はヘッダ定義ファイルに宣言されている RR0 ~ RR7 を使用してください。</p>
CloseCard_all	<p>全てのMC8041Pの使用を終了する。</p> <p>入力パラメータ : なし</p> <p>戻り値 : クローズに成功するとTRUE、失敗するとFALSE</p> <p>使用例 : CloseCard_N(1);</p>
ReadRR3_N	<p>MC8041Pが割り込みイベントを発生した直後のRR3の値(読み出し後クリア)</p> <p>入力パラメータ : int 使用開始するMC8041Pの番号 WORD * X軸のRR3を格納する変数へのポインタ WORD * Y軸のRR3を格納する変数へのポインタ WORD * Z軸のRR3を格納する変数へのポインタ WORD * U軸のRR3を格納する変数へのポインタ</p> <p>戻り値 : なし</p> <p>使用例 : ReadRR3_N(1, &Rr3X, &Rr3Y, &Rr3Z, &Rr3U); 1枚目のボードのRR3の内容をリード</p> <p>注意 : MC8041Pが割込を発生した直後ドライバ内でRR3を読み出してしまいうのでRR3はクリアされてしまいます、割込み発生直後のRR3を確認する場合はこの関数を使用してください。</p>

V Bでプログラミングする場合 (MC8041Pを1枚で使用する場合)

関数名	機能内容
OpenCard	<p>MC8041Pの使用を開始する。複数枚のMC8041Pを使用するときは自動的に1枚目に対して使用開始を通知します。</p> <p>入力パラメータ : 0 & 固定 戻り値 : As Long オープンに成功するとドライバのハンドルが戻る、失敗するとNULL</p> <p>使用例 : status = OpenCard(0&) // 0 & は固定</p>
CloseCard	<p>MC8041Pの使用を終了する。複数枚のMC8041Pを使用するときは自動的に1枚目に対して使用終了を通知します。</p> <p>入力パラメータ : なし 戻り値 : As Long クローズに成功するとTRUE、失敗するとFALSE</p> <p>使用例 : status = CloseCard()</p>
OutW	<p>出力ポートに1ワード書き込む。複数枚のMC8041Pを使用するときは自動的に1枚目に対して1ワード書き込みをします。</p> <p>入力パラメータ : ByVal As Integer ライトレジスタ番号 (WR0 ~ WR7) ByVal As Long 書き込むデータ 戻り値 : なし</p> <p>使用例 : Call OutW(WR0, &H8000) // ボードのソフトリセット</p> <p>注意 : ライトレジスタ番号の指定は標準モジュールで定義した WR0 ~ WR7 を使用してください。</p>
InW	<p>入力ポートから1ワード読み出す。複数枚のMC8041Pを使用するときは自動的に1枚目に対して1ワード読み込みをします。</p> <p>入力パラメータ : ByVal As Integer リードレジスタ番号 (RR0 ~ RR7) 戻り値 : As Long 入力ポートから読み込んだ1ワード</p> <p>使用例 : data = InW(RR0) // リードレジスタ RR0 の読み出し</p> <p>注意 : リードレジスタ番号の指定は標準モジュールで定義した RR0 ~ RR7 を使用してください。</p>

VB でプログラミングする場合 (MC8041Pを複数枚で使用する場合)

関数名	機能内容
OpenCard_N	<p>MC8041Pの使用を開始する。</p> <p>入力パラメータ : 0 & 固定 ByVal As Long 割り込み処理関数アドレス 戻り値 : As Long オープンに成功するとドライバのハンドルが戻る、失敗するとNULL</p> <p>使用例 : status = OpenCard_N(1, 0&) // 0 & は固定</p>
CloseCard_N	<p>MC8041Pの使用を終了する。</p> <p>入力パラメータ : ByVal As Integer 使用開始するMC8041Pの番号 戻り値 : As Long クローズに成功するとTRUE、失敗するとFALSE</p> <p>使用例 : status = CloseCard_N(1)</p>
OutW_N	<p>出力ポートに1ワード書き込む。</p> <p>入力パラメータ : ByVal As Integer 使用開始するMC8041Pの番号 ByVal As Integer ライトレジスタ番号 (WR0 ~ WR7) ByVal As Long 書き込むデータ 戻り値 : なし</p> <p>使用例 : Call OutW_N(1, WR0, &H8000) // ボードのソフトリセット</p> <p>注意 : ライトレジスタ番号の指定は標準モジュールで定義した WR0 ~ WR7 を使用してください。</p>
InW_N	<p>入力ポートから1ワード読み出す。</p> <p>入力パラメータ : ByVal As Integer 使用開始するMC8041Pの番号 ByVal As Integer リードレジスタ番号 (RR0 ~ RR7) 戻り値 : As Long 入力ポートから読み込んだ1ワード</p> <p>使用例 : data = InW_N(1, RR0) // リードレジスタ RR0 の読み出し</p> <p>注意 : リードレジスタ番号の指定は標準モジュールで定義した RR0 ~ RR7 を使用してください。</p>
CloseCard_all	<p>全てのMC8041Pの使用を終了する。</p> <p>入力パラメータ : なし 戻り値 : As Long クローズに成功するとTRUE、失敗するとFALSE</p> <p>使用例 : status = CloseCard_all()</p>

注意 :

VC++ , VB のどちらで使用する場合も InW, OutW, InW_N, OutW_Nでポートにアクセスする前にOpenCard()またはOpenCard_N()を必ず実行してください。

プログラム終了時にCloseCard(), CloseCard_N(), CloseCard_all()を実行してください。

OpenCard()またはOpenCard_N()関数実行前にInW(), OutW(), InW_N, OutW_N関数を実行した場合の動作保証はできません。

接続していないMC8041Pのボード番号を誤って指定した場合も、各関数の動作の保証はできません。

8.7 ソフトウェアの内容

ソフトウェアの内容一覧です。ここではソフトウェアをFDに展開した例を示します。

```
¥
+---LIB
|   +---VC6
|       +---MC8041P.lib           VC6用ライブラリファイル
|       +---MC8041P.h           VC6用ライブラリインクルードファイル
+---Driver
|   +---98                       Windows98/Me用ドライバ
|       |   +---MC8041P.sys       デバイスドライバ本体
|       |   +---MC8041P.inf       デバイスドライバのインストール用プログラム
|       |   +---MC8041P.dll       デバイスドライバを使用するためのダイナミックリンクライブラリ
|       |   +---MC8041P.cat       セキュリティー保護ファイル
|       +---NT                   Windows NT用ドライバ
|           |   +---MC8041P.sys   デバイスドライバ本体
|           |   +---Install.exe   デバイスドライバのインストール用プログラム
|           |   +---MC8041P.dll   デバイスドライバを使用するためのダイナミックリンクライブラリ
|           |   +---MC8041P.reg   デバイスドライバを手動でレジストりに登録する時に使用
|       +---2000                 Windows2000用ドライバ
|           |   +---MC8041P.sys   デバイスドライバ本体
|           |   +---MC8041P.inf   デバイスドライバのインストール用プログラム
|           |   +---MC8041P.dll   デバイスドライバを使用するためのダイナミックリンクライブラリ
|           |   +---MC8041P.cat   セキュリティー保護ファイル
|       +---XP                   WindowsXP用ドライバ
|           |   +---MC8041P.sys   デバイスドライバ本体
|           |   +---MC8041P.inf   デバイスドライバのインストール用プログラム
|           |   +---MC8041P.dll   デバイスドライバを使用するためのダイナミックリンクライブラリ
|           |   +---MC8041P.cat   セキュリティー保護ファイル
+---Sample
|   +---VB SAMPLE
|       |   +---Modelu1.bas       FormA の標準モジュールです
|       |   +---FormA.frm         サンプルプログラムA
|       |   +---Modelu2.bas       FormC の標準モジュールです
|       |   +---FormC.frm         サンプルプログラムC
|       |   +---VBSample.vbp      VB サンプルプログラム用プロジェクトファイル (VB6のみ)
|   +---VC SAMPLE
|       |   +---SmampleA.cpp      サンプルプログラムA
|       |   +---SmampleB.cpp      サンプルプログラムB
|       |   +---SmampleC.cpp      サンプルプログラムC
|       |   +---SmampleD.cpp      サンプルプログラムD
|       |   +---VCSample.dsp      VC サンプルプログラム用プロジェクトファイル (VC6のみ)
```

Windows98 WindowsNT Windows2000 WindowsXP Microsoft Visual C++ Microsoft Visual Basic は米国Microsoft Corporationの登録商標です。

9. 仕様まとめ

制御軸 4軸

PCIバスインターフェイス

データビット幅 16Bit
I/O占有アドレス 16Byte アドレスはPnP機能によって任意に決定
割り込み IRQ PnP機能によって任意に接続

補間機能

2軸 / 3軸直線補間
補間範囲： 各軸 -8,388,607 ~ +8,388,607
補間速度： 1 ~ 4 MPPS
補間位置精度： ±0.5LSB以下 (全補間範囲内で)

円弧補間
補間範囲： 各軸 -8,388,607 ~ +8,388,607
補間速度： 1 ~ 4 MPPS
補間位置精度： ±1LSB以下 (全補間範囲内で)

2軸 / 3軸ビットパターン補間
補間速度： 1 ~ 4 MPPS (ただしCPUデータセットアップ時間に依存)

その他の補間機能 任意軸選択可能 線速一定 連続補間 補間ステップ送り (コマンド)

XYZU各軸共通仕様

ドライブパルス出力

出力回路： 差動ラインドライバ (AM26C31) 出力
出力速度範囲： 1 PPS ~ 4 MPPS
出力速度精度： ±0.1%以下 (設定値に対して)
速度倍率： 1 ~ 500
S字用加加速度： 954 ~ 62.5×10^6 PPS/SEC² (倍率=1の時)
(加減速度の増減率) 477×10^3 ~ 31.25×10^9 PPS/SEC² (倍率=500の時)
加/減速度： 125 ~ 1×10^6 PPS/SEC (倍率=1の時)
 62.5×10^3 ~ 500×10^6 PPS/SEC (倍率=500の時)
初速度： 1 ~ 8,000PPS (倍率=1の時)
500PPS ~ 4×10^6 PPS (倍率=500の時)
ドライブ速度： 1 ~ 8,000PPS (倍率=1の時)
500PPS ~ 4×10^6 PPS (倍率=500の時)
出力パルス数： 0 ~ 268,435,455 (定量ドライブ)

速度カーブ： 定速 / 直線加減速 / 放物線 S字加減速ドライブ
定量ドライブの減速モード： 自動減速 / マニュアル減速

ドライブ中の出力パルス数、ドライブ速度の変更可能
独立2パルス / 1パルス・方向 方式選択可能。
パルスの論理レベル選択可能。

エンコーダA相 / B相 / Z相入力

入力回路： 高速フォトカプラ入力。差動ラインドライバとの接続可能。
2相パルス入力可能。
2相パルス 1, 2, 4 通倍選択可能。

位置カウンタ

論理位置カウンタ (出力パルス用) カウント範囲： -2,147,483,648 ~ +2,147,483,647
実位置カウンタ (入力パルス用) カウント範囲： -2,147,483,648 ~ +2,147,483,647
常時書き込み、読み出し可能

コンペアレジスタ

COMP+レジスタ位置比較範囲： -2,147,483,648 ~ +2,147,483,647
COMP-レジスタ位置比較範囲： -2,147,483,648 ~ +2,147,483,647
位置カウンタとの大小をステータス出力及び信号出力。
ソフトウェアリミットとして動作可能。

割り込み機能（補間を除く）

割り込み発生要因： 1 ドライブパルス出力、位置カウンタ COMP-変化時、位置カウンタ < COMP-変化時、位置カウンタ < COMP+変化時、位置カウンタ COMP+変化時、加減速ドライブ中の定速開始時、加減速ドライブ中の定速終了時、ドライブ終了時。

いずれの要因に対しても有効/無効選択可能。

外部信号によるドライブ操作

EXPP、EXPM信号により、+ / - 方向の定量/連続ドライブが可能。

入力回路： フォトカプラ + C R 積分フィルタ回路。

外部減速停止 / 即停止信号

IN0 ~ 3 各軸 4 点（IN0はエンコーダ Z 相入力用）

入力回路： フォトカプラ + C R 積分フィルタ回路。（IN0は高速フォトカプラ入力）

いずれの信号も有効/無効、論理レベルの選択可能。汎用入力としても使用可能。

サーボモータ用入力信号

ALARM（アラーム）、INPOS（位置決め完了）。

入力回路： フォトカプラ + C R 積分フィルタ回路

いずれの信号も有効/無効、論理レベルの選択可能。

汎用出力信号

OUT4 ~ 7 各軸 4 点（汎用出力/ドライブ状態出力 切り換え可能）

出力回路： 74LS06出力（オープンコレクタ出力）

ドライブ状態信号出力

ASND(加速中)、DSND(減速中)、CMPP(位置 COMP+)、CMPM(位置 < COMP-)。

ドライブ状態は、ステータスレジスタでも読み出し可能。

オーバランリミット信号入力

+ 方向、- 方向各 1 点。

入力回路： フォトカプラ + C R 積分フィルタ回路

論理レベル選択可能。アクティブ時、即停止/減速停止選択可能

緊急停止信号入力

全軸でEMGN 1 点。全軸のドライブパルスを即停止。基板上のジャンパーで論理レベル選択可能。

入力回路： フォトカプラ + C R 積分フィルタ回路

その他

動作温度範囲：	0 ~ + 4 5 （結露しないこと）
電源電圧：	+ 5 V ± 5 %（消費電流 7 0 0 m A max）
外部電源電圧：	+ 1 2 ~ 2 4 V
基板外形寸法：	174.6 × 106.7mm（コネクタ、金具部は含まず）
I/Oコネクタ型式：	FX2B-100PA-1.27DS（ヒロセ）
付属品：	FX2B-100SA-1.27R（ヒロセ）1.2 m ケーブル付き